



AWSの基本が1日で学べる！ 超入門講座

13:00より開始いたします

アジェンダ



時間	コンテンツ	
13:05 ~ 13:45	セッション1	AWSクラウドの基本的な概念とテクノロジーの理解
13:45 ~ 14:25	セッション2 (前半)	AWSの基本的なテクノロジーと、セキュリティの基礎
14:25 ~ 14:35	休憩	
14:35 ~ 14:55	セッション2 (後半)	AWSの基本的なテクノロジーと、セキュリティの基礎
14:55 ~ 15:35	セッション3	セキュリティ、よいアーキテクチャの理解
15:35 ~ 15:55	セッション4	AWS利用時の料金と注意点
15:55 ~ 16:05	休憩	
16:05 ~ 16:50	セッション5	各種デモ
16:50 ~ 16:55		入門資格「AWS Certified Cloud Practitioner」のご案内
16:55 ~ 17:00		クロージング

質問について



- ご質問はRocket.Chatからお願いします。
- 全てのご質問には回答できない場合があります

■配信には時差があります

- ✓ 話している内容と画面が異なる場合はしばらくお待ちください

■途中から音声が聞こえなくなったら

- ✓ ブラウザをリロード、再起動してください

■画面が動かなくなったら

- ✓ 一度Webexを退出し、同じWebexのURLからもう一度ご入室ください

■チャットの表示が文字化けしたら

- ✓ ブラウザの自動翻訳をOFFにしてください



セッション1: AWS クラウドの基本的な概念 とテクノロジーの理解

トピック



- AWS とは
- AWS クラウドの特徴
- AWS クラウド導入のメリット
- グローバルインフラストラクチャ

AWS とは

AWSとは？



1995年、オンライン書店として
サービスを開始。

2006年、**Amazon** 社内の
ビジネス課題を解決する
ノウハウをもとに、
AWSがサービス提供を開始。

AWSとは？



AWSとは？



AWSとは？



Amazonを
支える技術が
ベース

AmazonもAWSの
クラウドを利用

一般のお客様に
クラウドサービスを提供



AWS クラウドの特徴

サーバーってなんだろう？



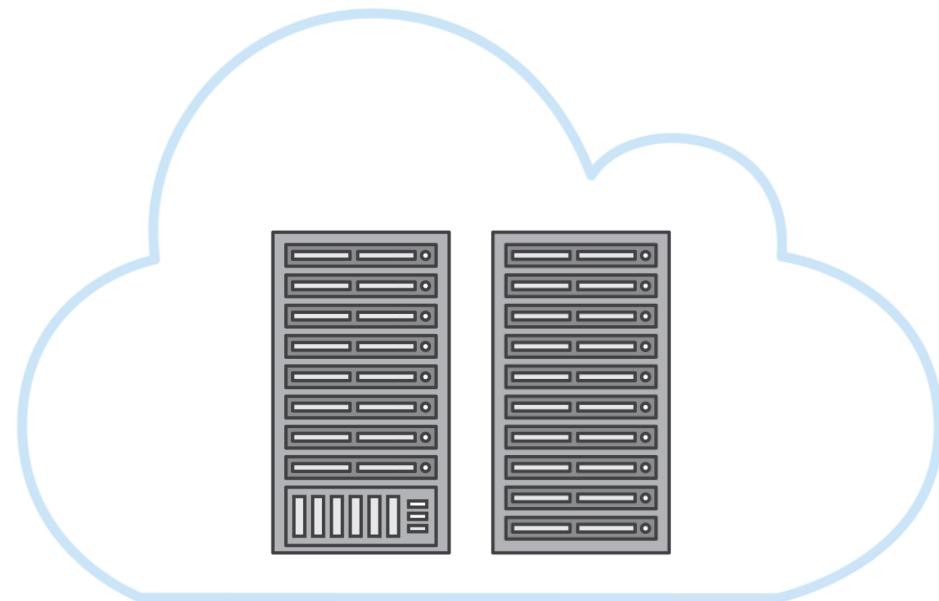
- システムを構成するコンピュータ
- Webサーバー
- アプリケーションサーバー
- データベースサーバー 他
- 様々な役割の「サーバー」がある

サーバーをどこで運用する？

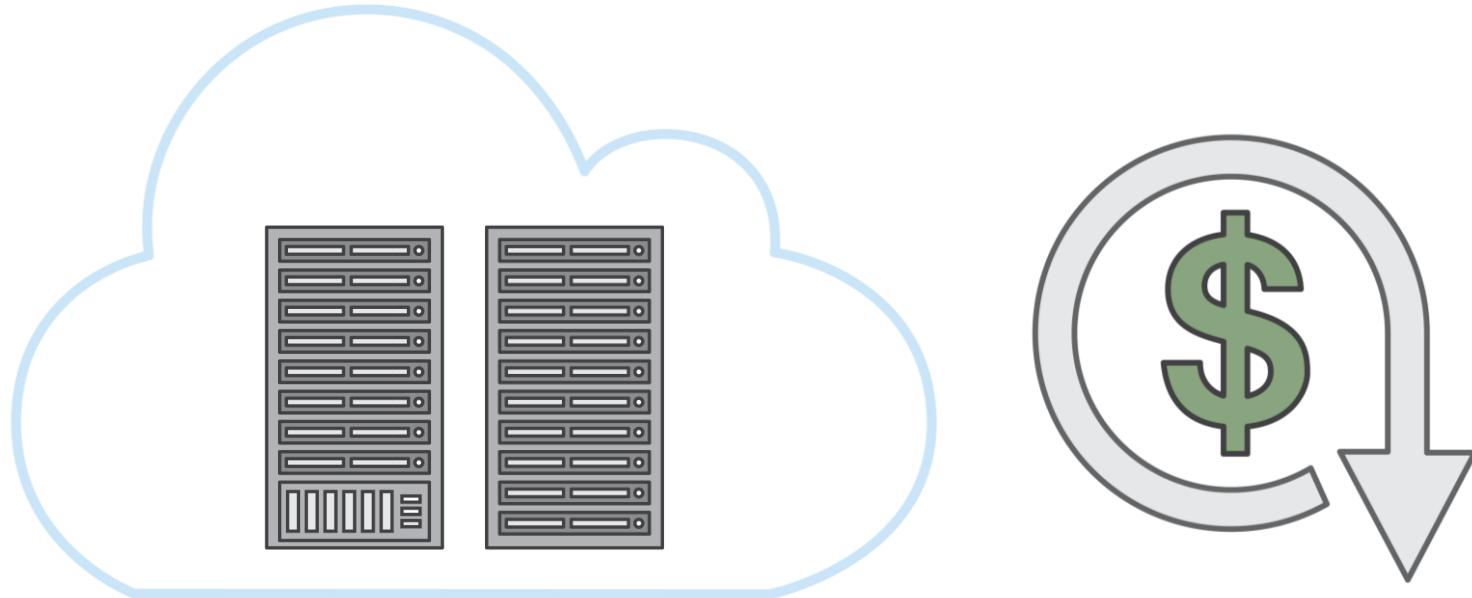
1.企業内の「サーバールーム」で運用



2.自社または他社の「データセンター」で運用



3. **AWS**などの**クラウド**で運用



■ クラウドコンピューティング

- ✓ 従量制料金による、インターネット経由の IT リソースとアプリケーションのオンデマンド配信

■AWS クラウドは

従量制の料金

インターネット経由

オンデマンド

で使用できる、コンピューティングサービス。

サーバーを運用

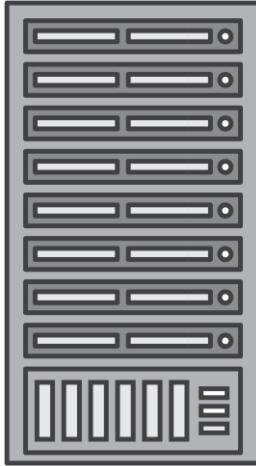
サービスを利用

AWS クラウド導入のメリット

AWS導入前：見積もり・初期投資



アプリケーション
サーバー



プログラムを
実行 (Spring)

CPU、メモリ、ディスクはどのくらい必要になるかな？見積もりが難しい・・・

サーバーを購入・契約すると数百万円～数千万円の初期投資が必要・・・。



- AWS を利用した場合、**オンデマンド**で必要な性能・容量を利用することができるため、**難しい事前の予測が不要**になる
- **従量制料金**のため、大きな**初期投資**が不要になる

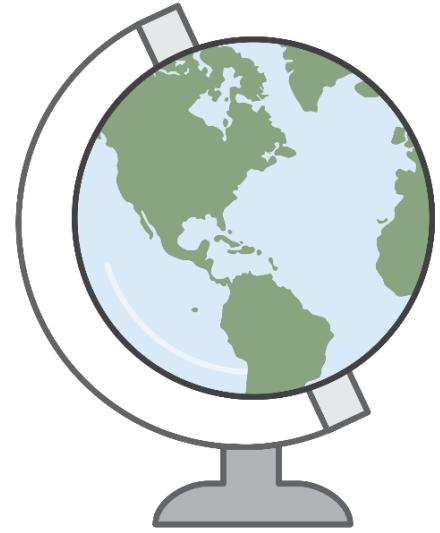


クラウド移行の最大の理由：俊敏性の向上

- 速度
- 実験
- イノベーションの文化

俊敏性: 速度の向上と世界展開の拡大

- 新しいリソースの迅速な可用性
- 迅速な世界展開



俊敏性：実験の増加

- さまざまな構成を使用した実験
- コードとしての運用
- ✓ 再現性、効率の向上
- 安全な実験

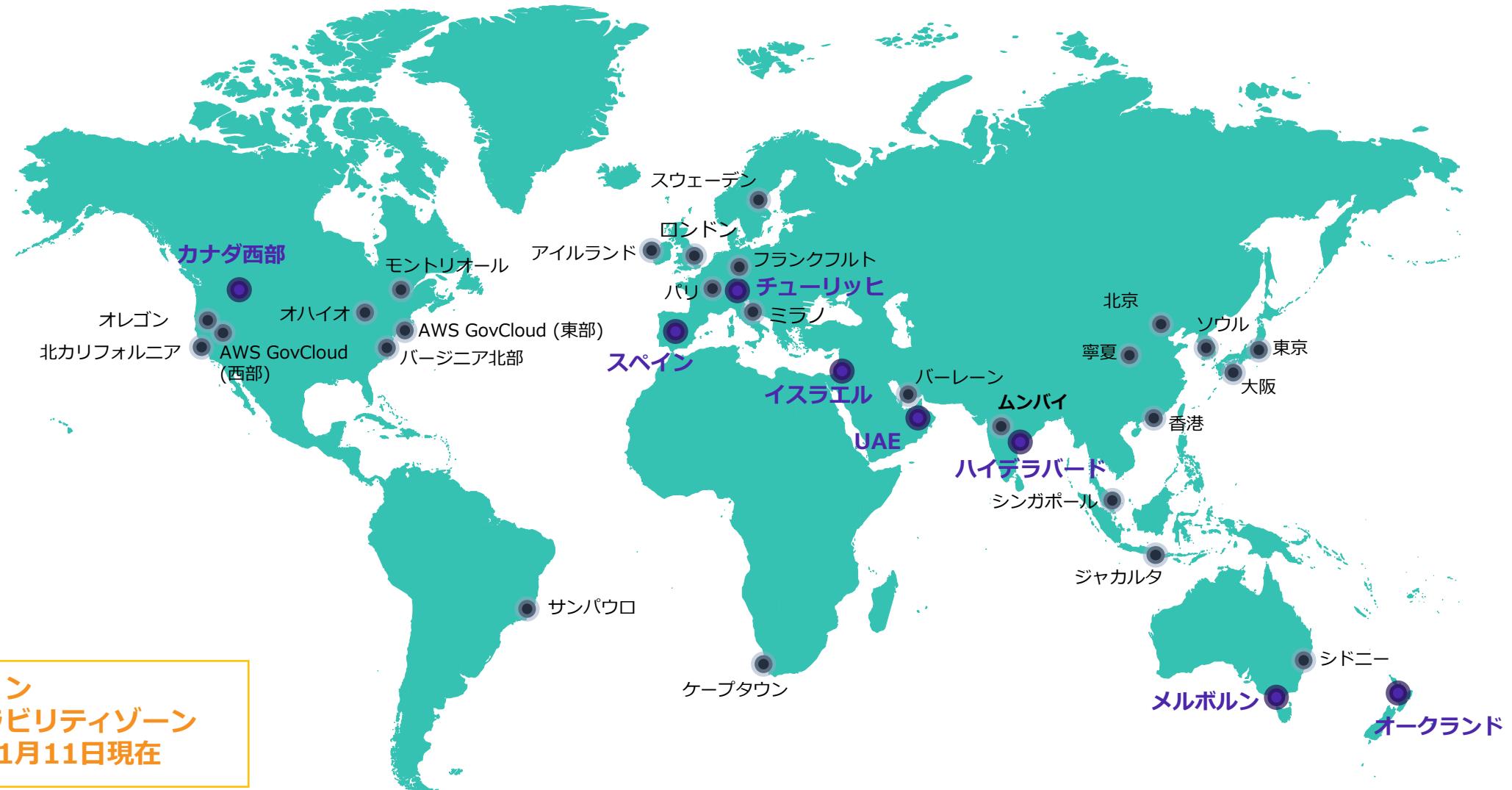


俊敏性: イノベーションの拡大

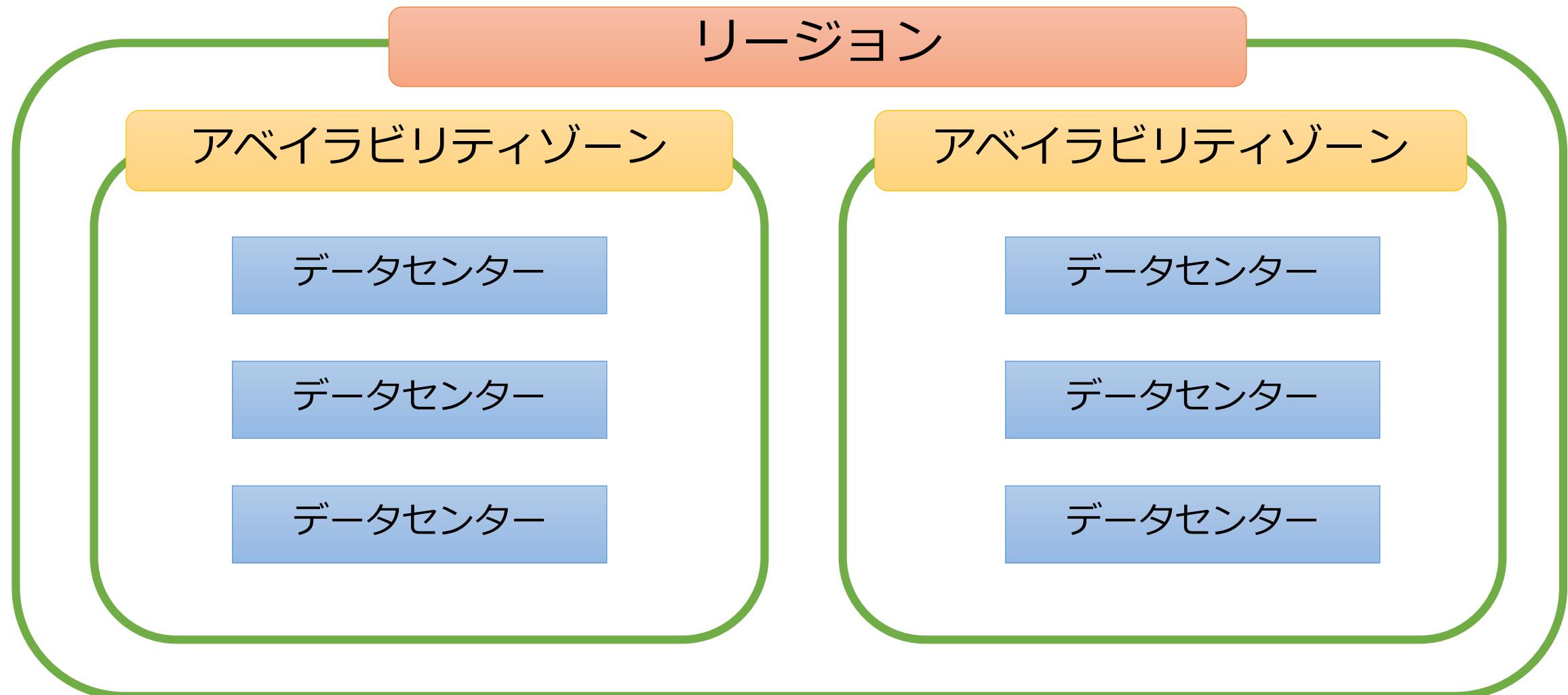
- 低コストおよび低リスクでの迅速な実験
- より多くの実験を何度も

AWS グローバル インフラストラクチャ

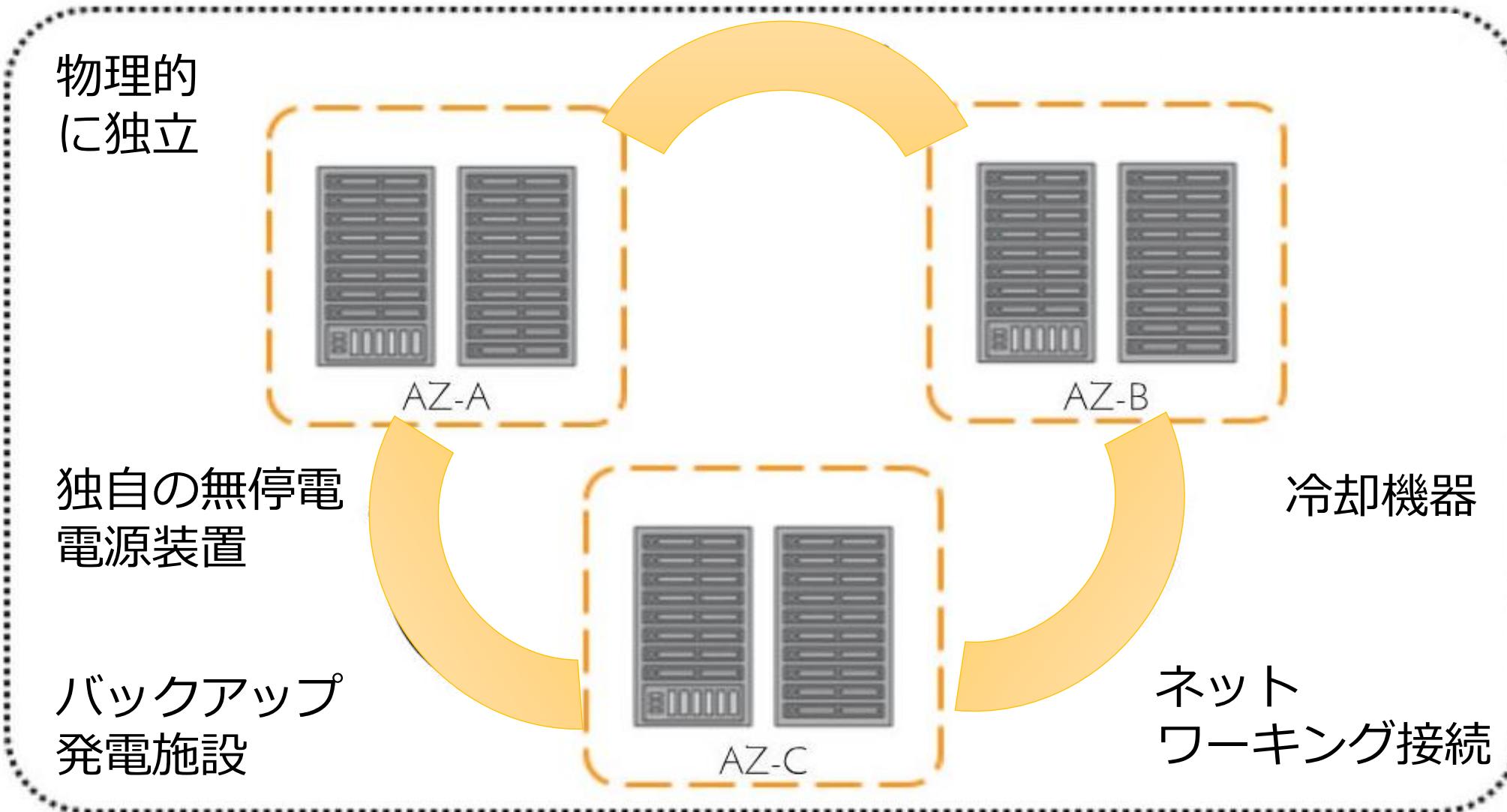
AWS グローバルインフラストラクチャ



リージョン



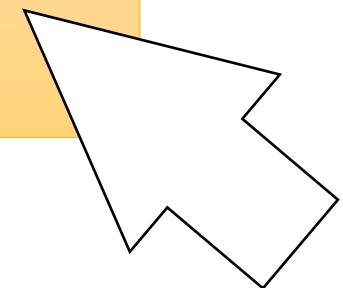
アベイラビリティーゾーン



公式サイトを検索

AWS データセンター

検索



→ 「AWSのデータセンター」

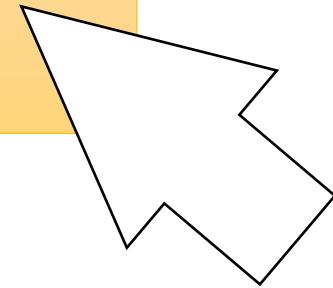
- AWS とは
- AWS クラウドの特徴
- AWS クラウド導入のメリット
- グローバルインフラストラクチャ

付録

公式サイトを検索

AWS 10の理由

検索



→ 「AWSのクラウドが選ばれる10の理由」

■ストレージ

- ✓ ファイルやデータを格納する場所。ファイルサーバーやディスクなど。

■ITリソース

- ✓ サーバーなど。

■プロビジョニング (Provisioning)

- ✓ サーバーなどを事前に準備・確保すること。

■低遅延

- ✓ リクエストからレスポンスまでの時間（が小さいこと）。サーバーがすばやく反応すること。

■スケールメリット

- ✓ 規模の経済。クラウドでは、大規模にシステムを集約して運用するほど、コストが下がる。

■容量計画

- ✓ キャパシティプランニング。システムに必要な容量を見積もること。

■柔軟性(elastic / elasticity)

- ✓ サーバーの性能を必要に応じて拡大・縮小できること。

■差別化された価値

- ✓ AWSを使用することで、サーバーの管理という重労働から開放され、新しい価値（新機能）を開発しやすくなる。

■検証 / 実験

- ✓ AWSを使用すると、サーバーの機能の検証をすばやく実行できる。
- ✓ また、検証が終わったら、不要なサーバーはすばやく削除できる。

■ AWS 用語集

- ✓ Wikipediaのようにリンクを辿っていけますので、わからない単語があればこちらから探してみましょう



お疲れ様でした



セッション2: AWSの基本的なテクノロジーと、セキュリティの基礎

トピック

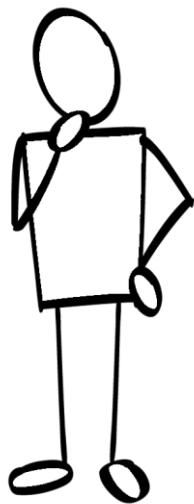


- Amazon Elastic Compute Cloud (EC2)
- Elastic Load Balancing(ELB)
- Auto Scaling
- Amazon Elastic Block Store (EBS)
- Amazon Simple Storage Service (S3)
- Amazon Relational Database Service (RDS)
- Virtual Private Cloud (VPC)
- セキュリティグループ

サービスとカテゴリの紹介

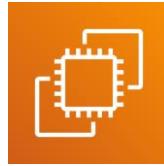


コンピューティング	機械学習	アプリケーション統合
モバイル	IoT	Game Tech
ARとVR	ロボット工学	量子テクノロジー
エンドユーザー・コンピューティング	ビジネス・アプリケーション	カスタマーエンゲージメント
ストレージ	メディア・サービス	移行と転送
データベース	分析	ブロックチェーン
ネットワークとコンテンツ配信	マネジメントとガバナンス	セキュリティ、ID、コンプライアンス
AWS コスト管理	開発者用ツール	人工衛星



AWSでサーバーを動かすには
どうしたらしいのだろう？

Amazon Elastic Compute Cloud (EC2)



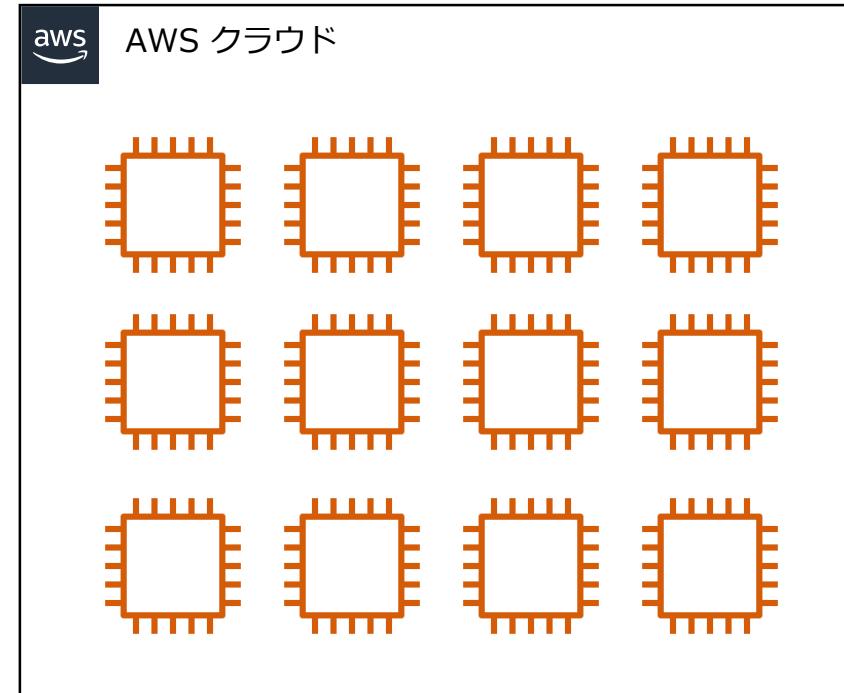
Elastic Compute Cloud



- ✓ アプリケーションサーバー
- ✓ ウェブサーバー
- ✓ データベースサーバー
- ✓ ゲームサーバー
- ✓ メールサーバー
- ✓ メディアサーバー
- ✓ カタログサーバー
- ✓ ファイルサーバー
- ✓ コンピューティングサーバー
- ✓ プロキシサーバー

Amazon EC2 インスタンス

- 従量課金制
- HW/SW の幅広い選択肢
- グローバルホスティング
- 詳細 (aws.amazon.com/ec2)



インスタンスタイプ



ファミリー	説明	ユースケース例:
t3、t2、m5、m4	汎用 バランスのとれたパフォーマンス	ウェブサイト、ウェブアプリケーション、開発、コードリポジトリ、マイクロサービス、ビジネスアプリ
c5、c4	コンピューティング最適化 ハイ CPU パフォーマンス	フロントエンドフリート、ウェブサーバー、バッチ処理、分析の分散、科学およびエンジニアリング分野のアプリ、広告サービス、MMO ゲーム、動画エンコーディング
g2、p2	GPU 最適化 ハイエンド GPU	Amazon AppStream 2.0、動画エンコーディング、機械学習、高パフォーマンスデータベース、科学
x1e、x1、r5	メモリ最適化 大容量 RAM フットプリント	インメモリデータベース、データマイニング
h1、i3	ストレージ最適化 ハイ I/O、高密度	NAS、データウェアハウス、NoSQL

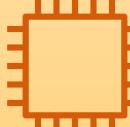
aws.amazon.com/ec2/instance-types

■ AWSでサーバーを動かすにはどうしたらいいんだろう？



EC2

の



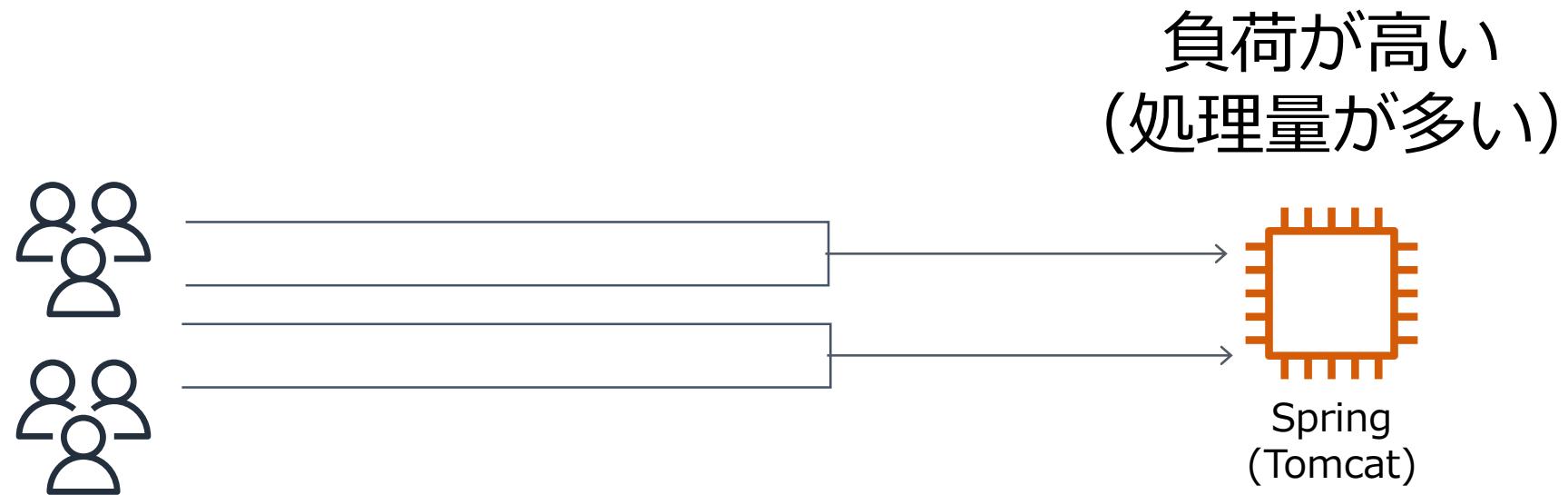
インスタンス

を作成

SSHまたはSession Managerで接続（リモートログイン）

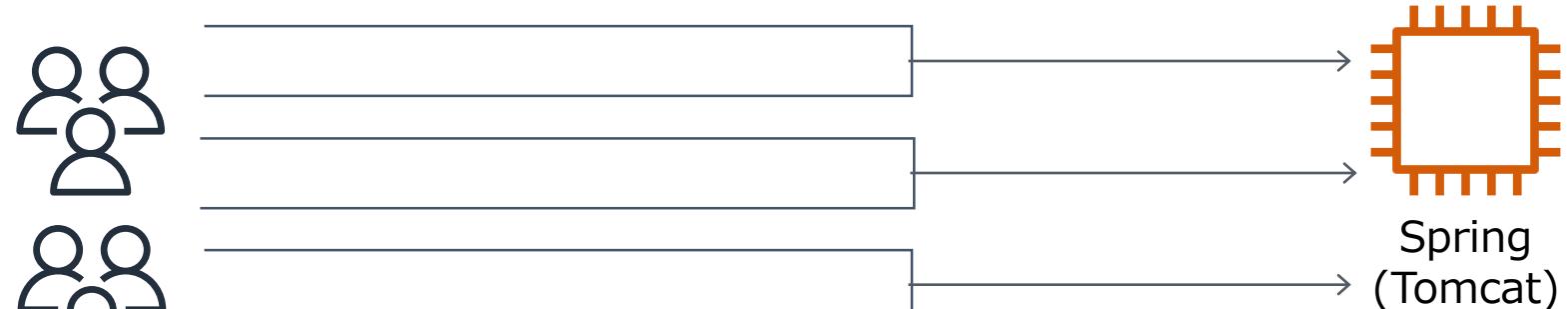
必要なソフトウェア（Java, Spring等）をインストール

■ 1台のインスタンスでは性能が不足する場合にはどうしたらいいんだろう？

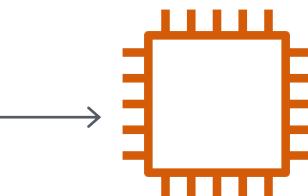


2台にインスタンスを増やしただけでいい？

負荷が高い

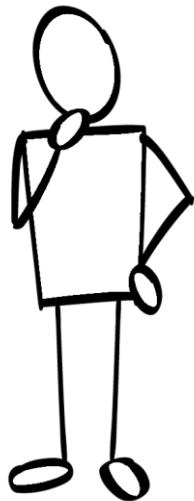


Spring
(Tomcat)



Spring
(Tomcat)

負荷が低い

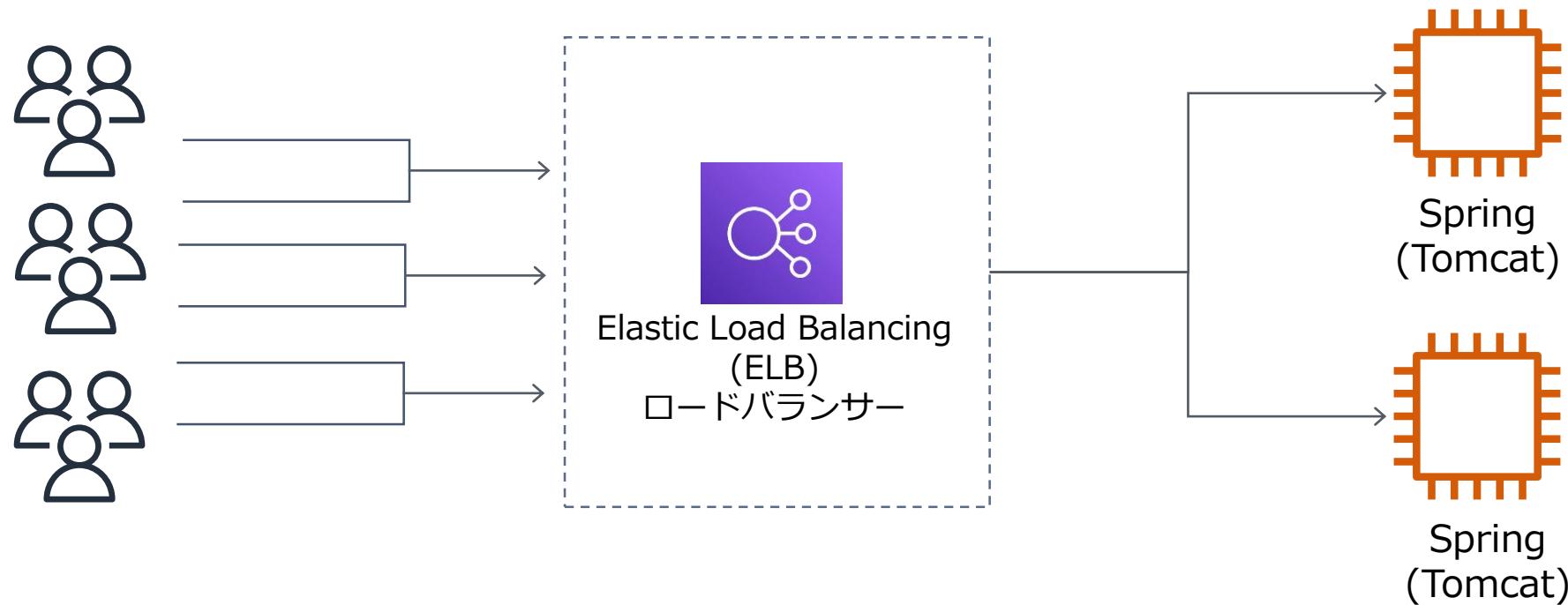


複数のサーバーに均等にリクエストを分散させるにはどうしたらいいのだろう？

Elastic Load Balancing (ELB)

はじめに

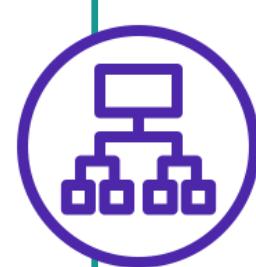
- マネージド型負荷分散サービス
- インスタンス間で負荷を**分散する**



Elastic Load Balancing 製品



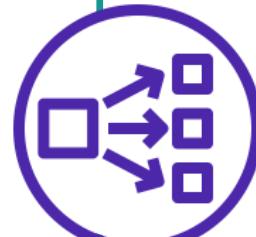
ELB



Application Load Balancer

HTTP と HTTPS

柔軟なアプリケーション管理
トラフィックの高度なロードバランシング
リクエストレベルで動作 (レイヤー 7)

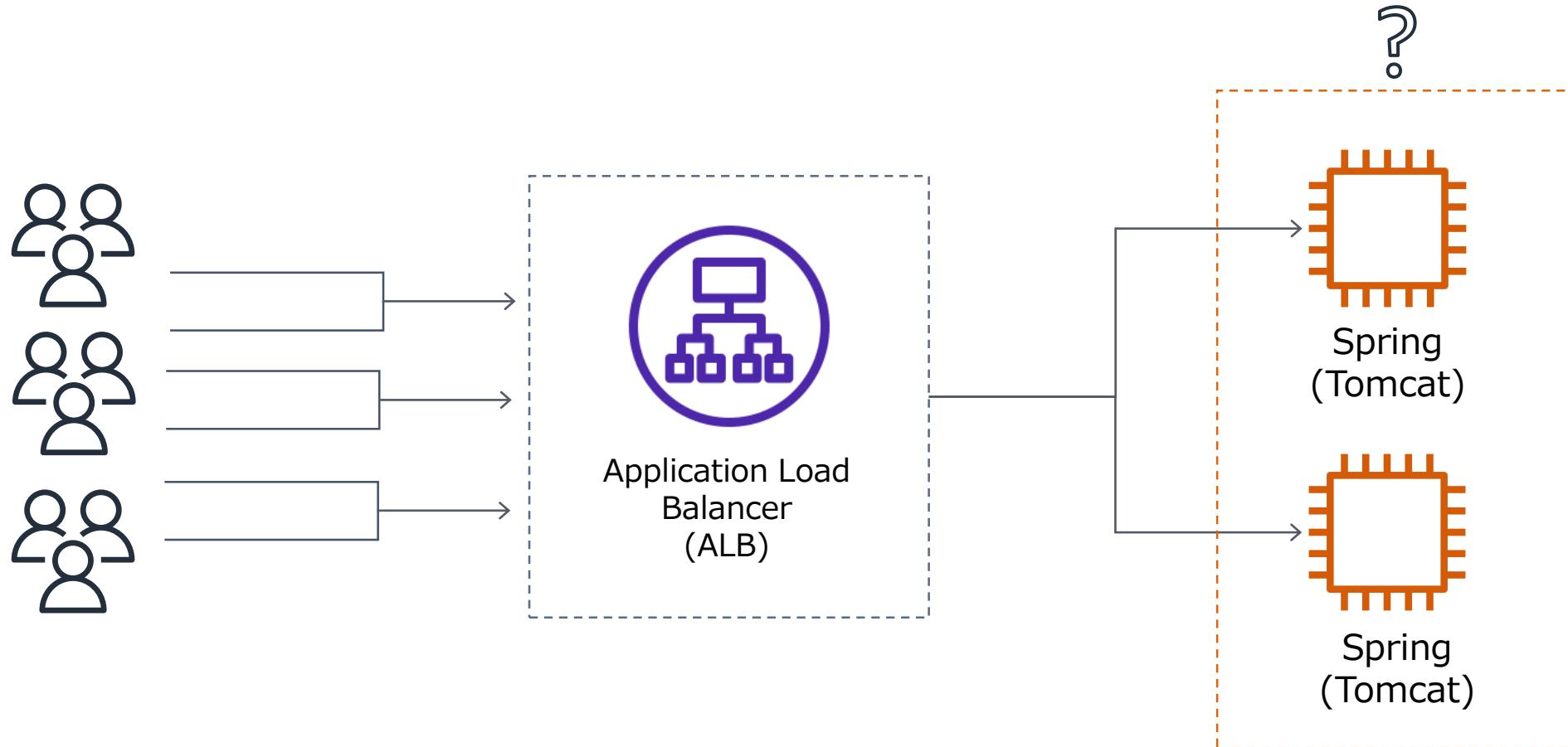


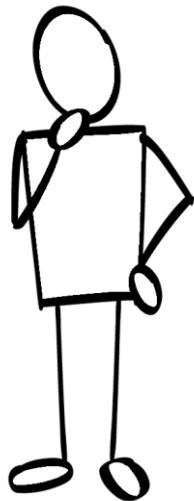
Network Load Balancer

TCP と UDP

卓越したパフォーマンスと静的 IP
TCP トラフィックのロードバランシング
接続レベルで動作 (レイヤー 4)

■インスタンスは2台のままで大丈夫？





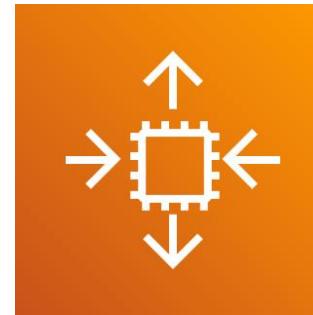
EC2インスタンスを自由自在に増減させる
にはどうしたらいいのだろう？

Auto Scaling

Amazon EC2 Auto Scaling とは

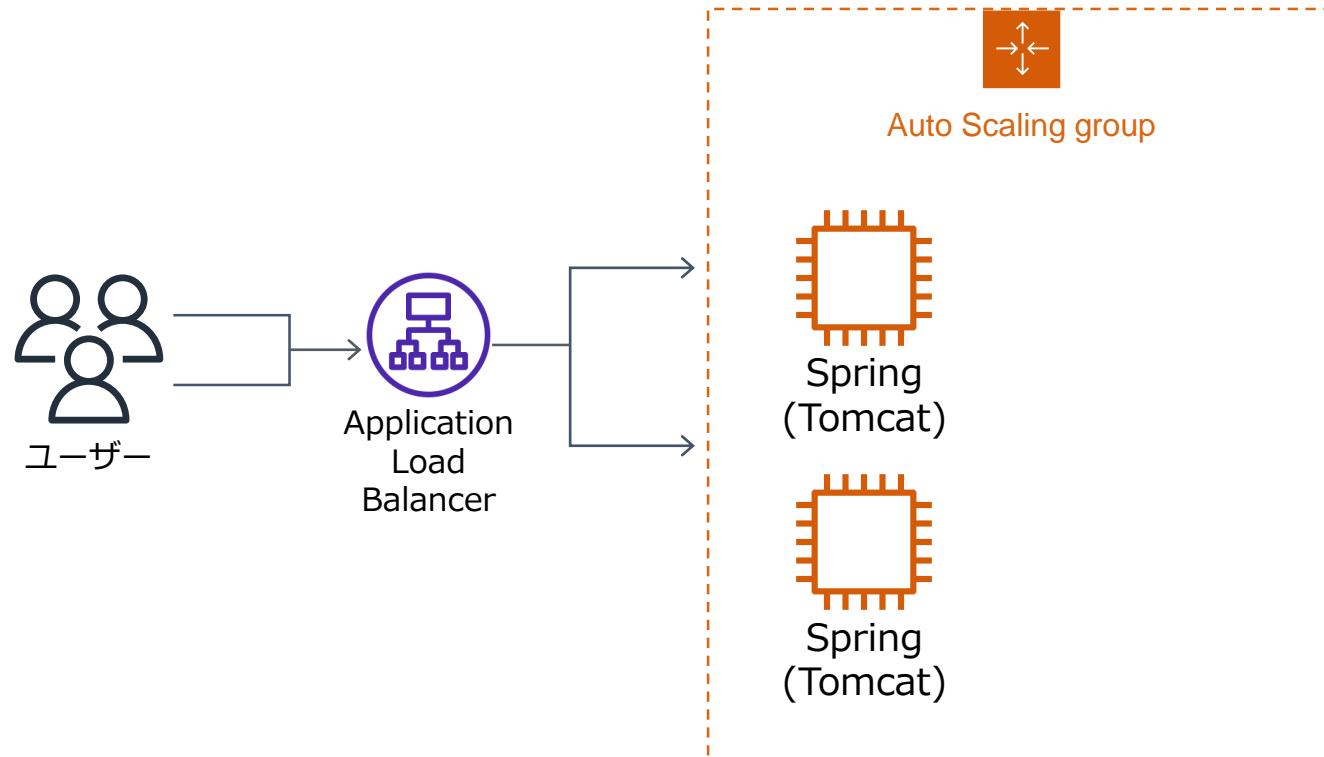


- 一つでもお客様のアプリケーションの負荷を処理するのに適切な数の Amazon EC2 インスタンスが生成されるようになります



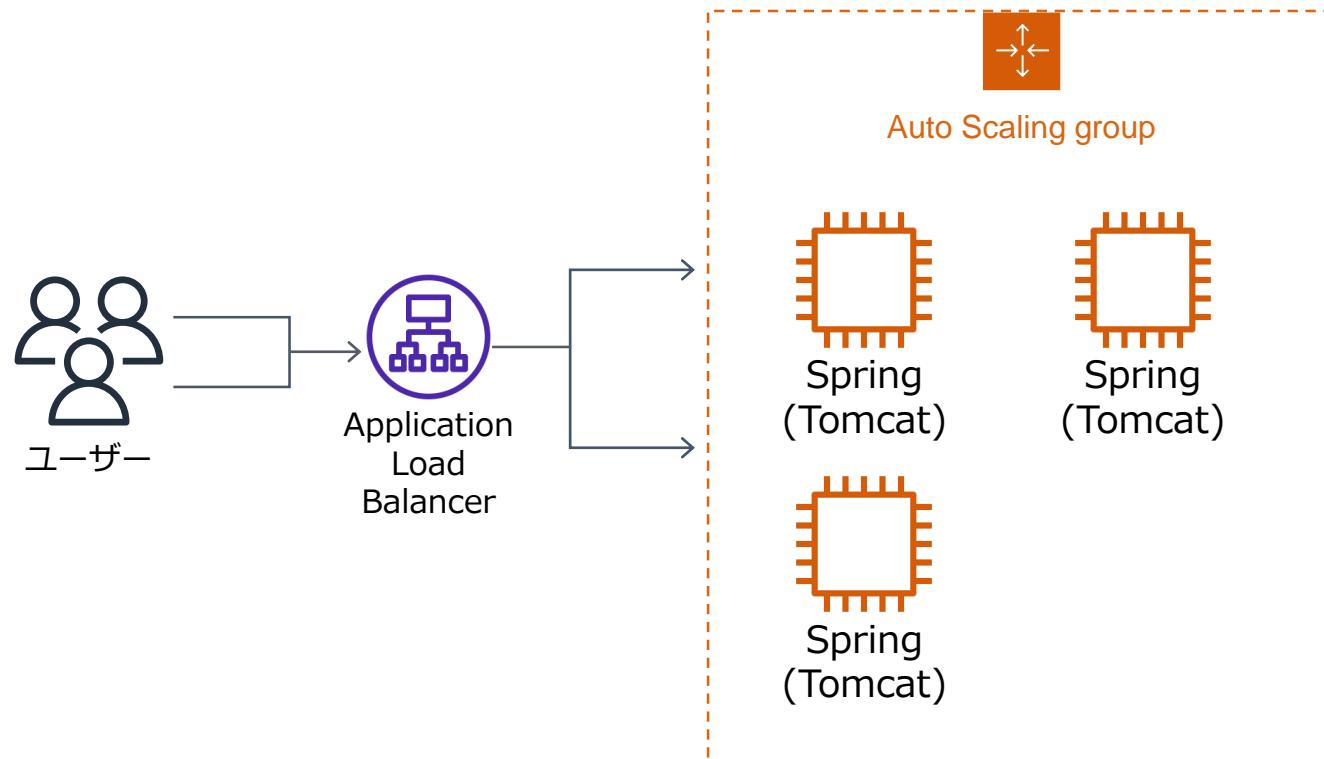
Amazon EC2
Auto Scaling

■インスタンスを自動的に増減させるにはどうしたらいいんだろう?
→Auto Scalingを使用



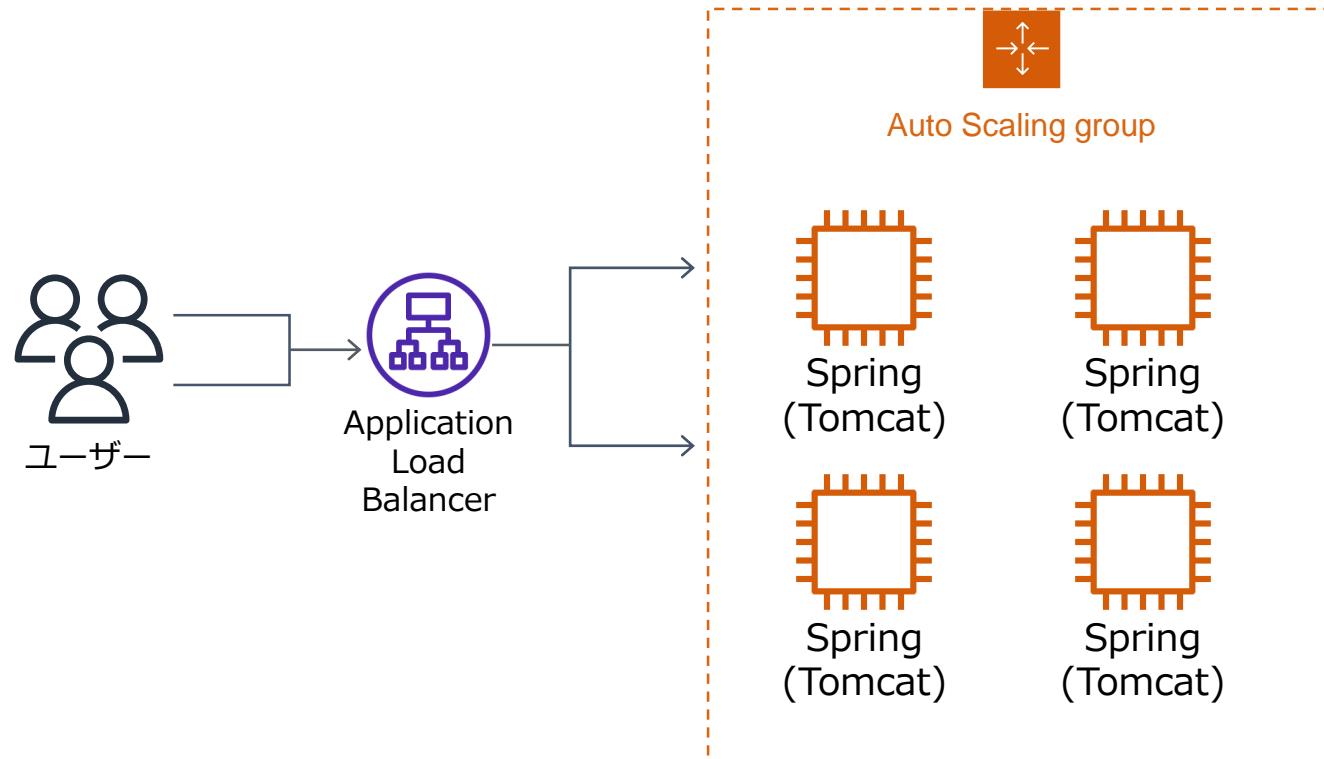
負荷状況に応じて
スケールアウト
(インスタンス追加)
スケールイン
(インスタンス削除)
を自動的に実行

- インスタンスを自動的に増減させるにはどうしたらいいんだろう?
→Auto Scalingを使用



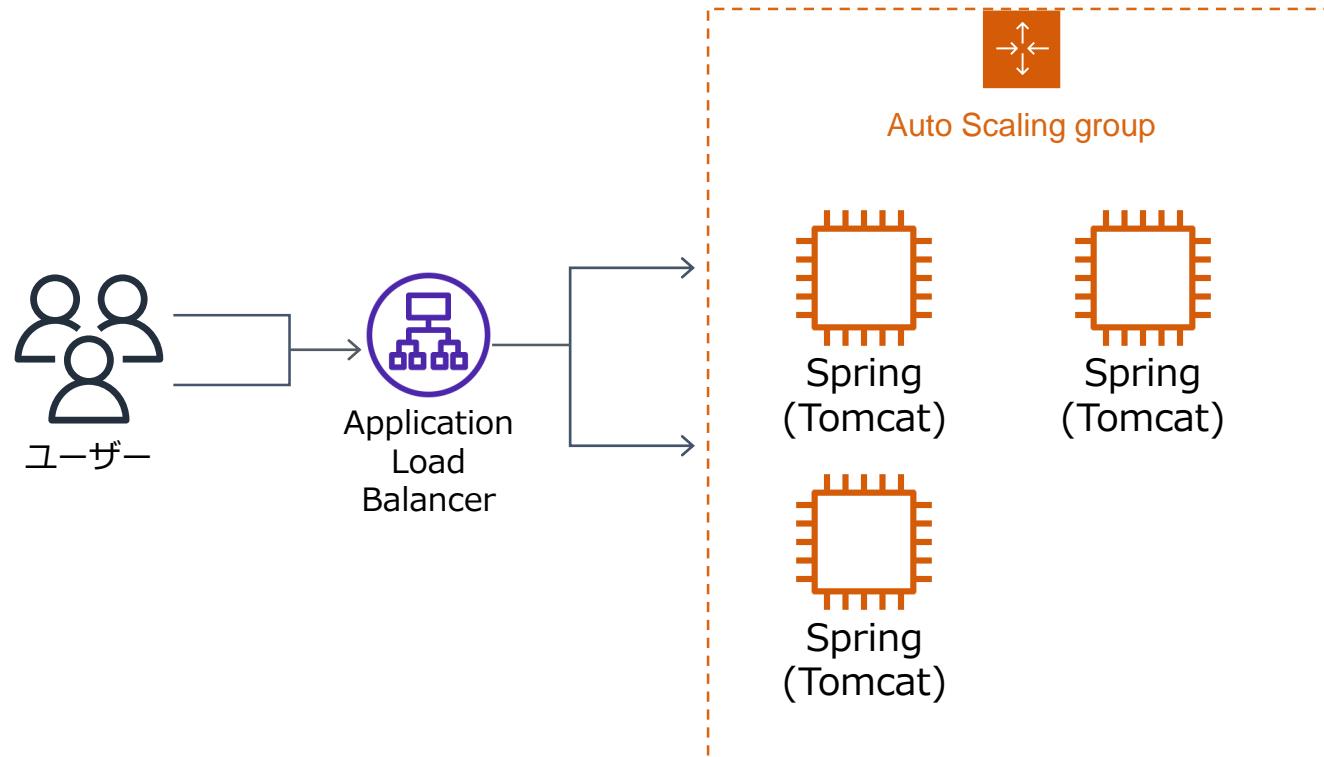
負荷状況に応じて
スケールアウト
(インスタンス追加)
スケールイン
(インスタンス削除)
を自動的に実行

- インスタンスを自動的に増減させるにはどうしたらいいんだろう?
→Auto Scalingを使用



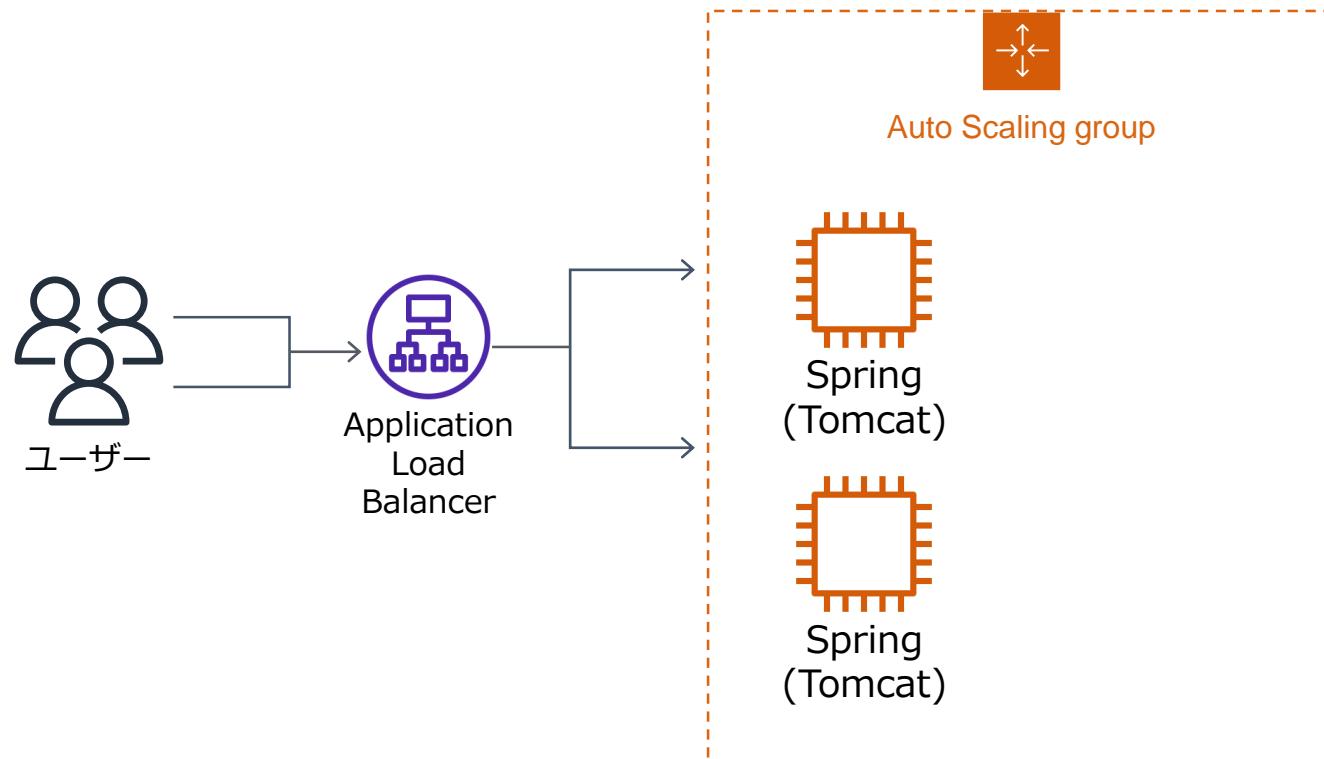
負荷状況に応じて
スケールアウト
(インスタンス追加)
スケールイン
(インスタンス削除)
を自動的に実行

- インスタンスを自動的に増減させるにはどうしたらいいんだろう?
→Auto Scalingを使用



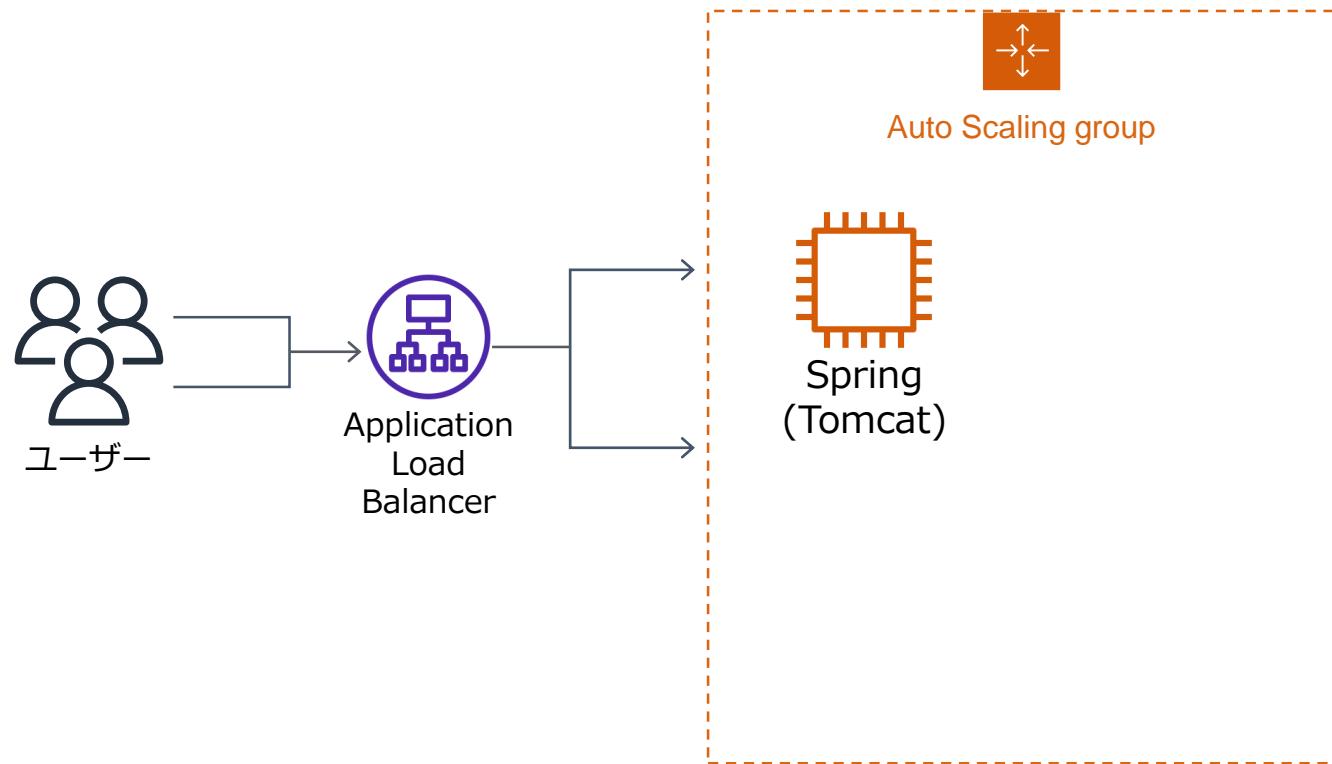
負荷状況に応じて
スケールアウト
(インスタンス追加)
スケールイン
(インスタンス削除)
を自動的に実行

- インスタンスを自動的に増減させるにはどうしたらいいんだろう?
→Auto Scalingを使用

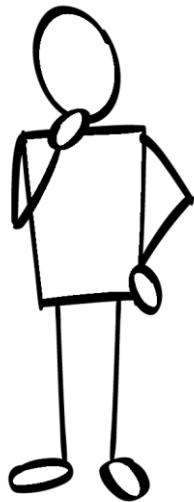


負荷状況に応じて
スケールアウト
(インスタンス追加)
スケールイン
(インスタンス削除)
を自動的に実行

- インスタンスを自動的に増減させるにはどうしたらいいんだろう?
→Auto Scalingを使用



負荷状況に応じて
スケールアウト
(インスタンス追加)
スケールイン
(インスタンス削除)
を自動的に実行

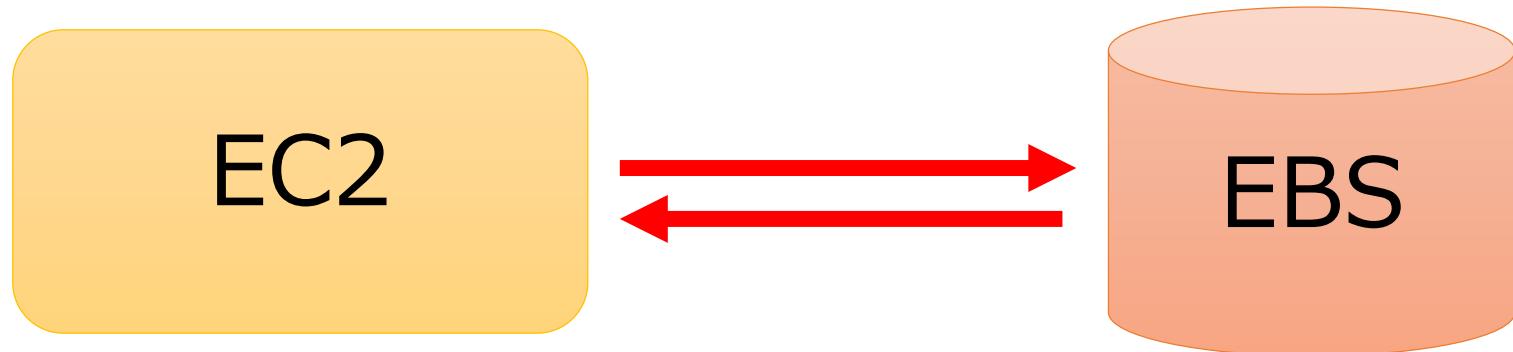


EC2インスタンスは、ファイルをどこに保存しているのだろう？

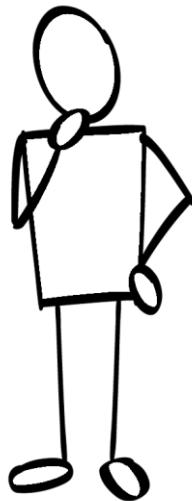
Amazon Elastic Block Store (EBS)

- EC2 インスタンス向けのカスタマイズ可能な永続的ブロックストレージ
- HDD タイプと SSD タイプ
- 同じアベイラビリティーゾーンにレプリケート
- バックアップ用スナップショット
- 容易な透過的暗号化
- 伸縮自在

EC2インスタンスは、ファイルをどこに保存しているんだろう？



OS(Linux等)
サーバーソフトウェア(Tomcat等)
プログラム(Javaサーブレット等)
データ



大容量で、耐久性が高く、簡単に使える
ストレージはないだろうか？

Amazon Simple Storage Service (S3)

◆特徴

- ✓ 完全マネージド型クラウドストレージサービス
- ✓ 豊富なセキュリティ制御

◆機能

- ✓ 保存できるオブジェクト数は無制限
- ✓ いつでもどこでもアクセス可能

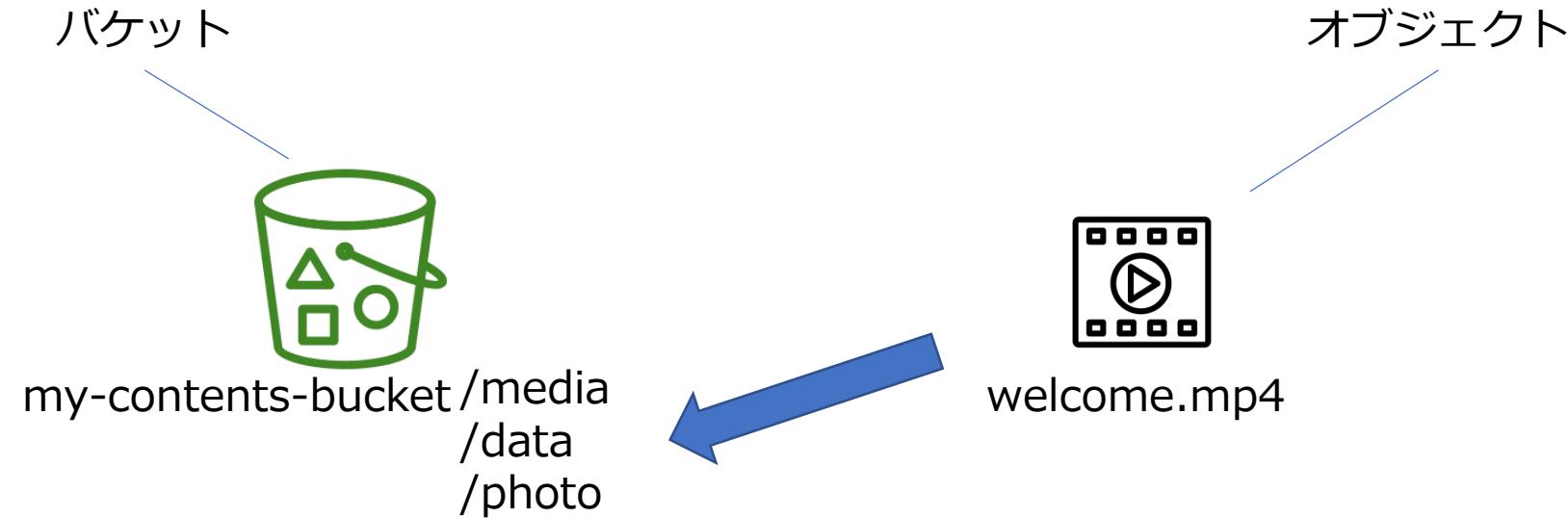
Amazon S3の耐久性と可用性



標準ストレージ

- ✓ 99.99999999% の耐久性
- ✓ 99.99% の可用性

S3 の開始方法



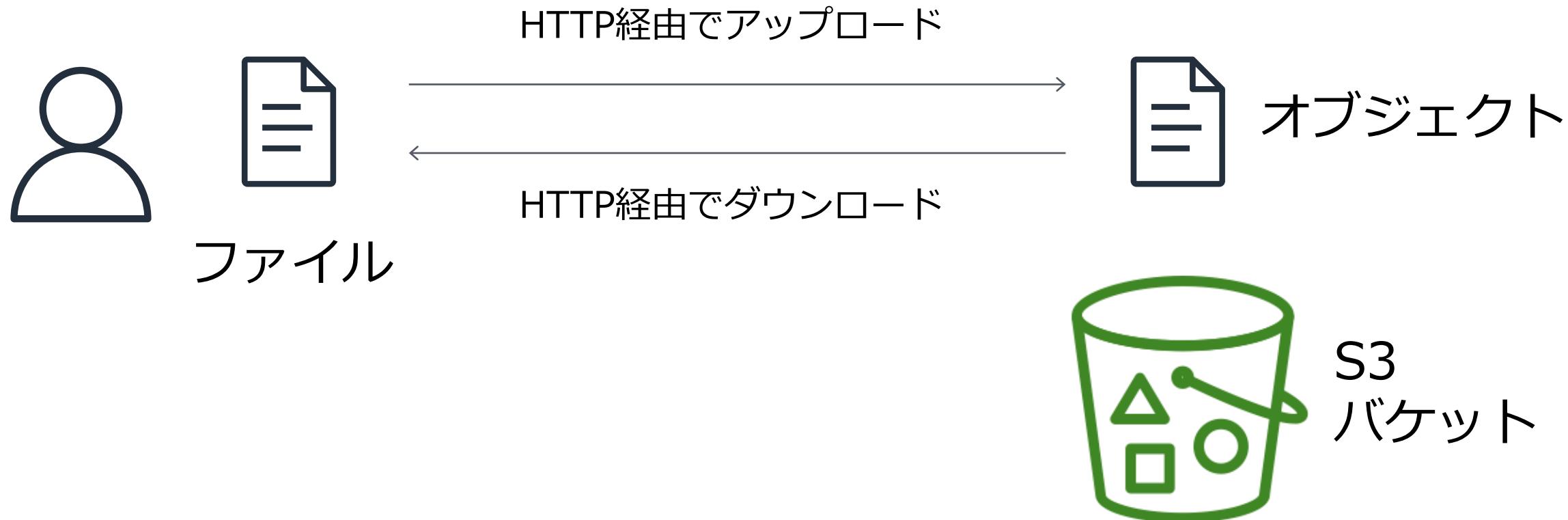
バケット名とキーを組み合わせたURLでアクセス

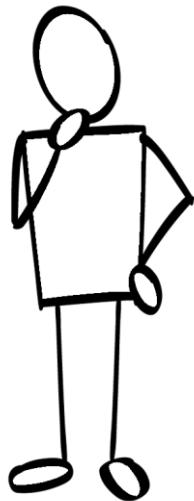
[https://\[bucket name\].s3.amazonaws.com/media/welcome.mp4](https://[bucket name].s3.amazonaws.com/media/welcome.mp4)

バケット名

キー

大容量で、耐久性が高く、簡単に使えるストレージはないだろうか？





AWSで、データベースを使用するにはどうすればいいのだろう？

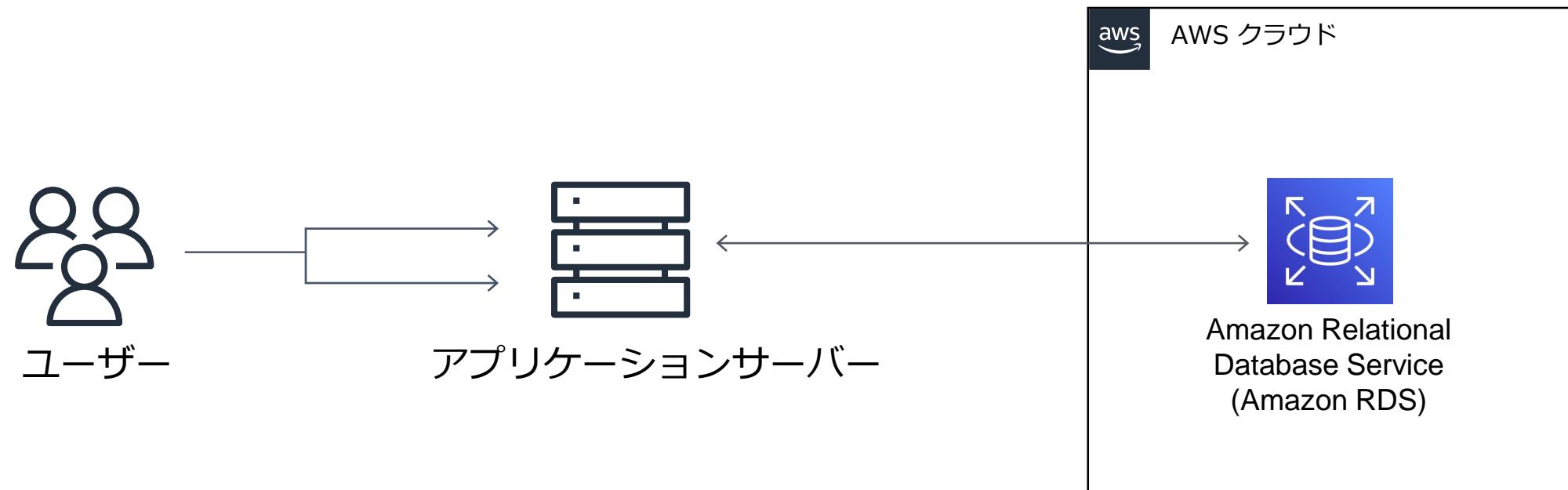
Amazon Relational Database Service (RDS)

リレーショナルデータベースの課題



- サーバーメンテナンスとエネルギー・フットプリント
- ソフトウェアのインストールとパッチ
- データベースバックアップと高可用性
- スケーラビリティの制約
- データセキュリティ
- OS のインストールとパッチ

クラウドでリレーショナルデータベースをセットアップ
および運用するマネージド型サービス



お客様による管理:

- ✓ アプリケーションの最適化

AWS による管理:

- ✓ OS インストールとパッチ
- ✓ データベースソフトウェアのインストールとパッチ
- ✓ データベースバックアップ
- ✓ 高可用性
- ✓ スケーリング
- ✓ 電力供給、サーバーの設置、積み上げ
- ✓ サーバーメンテナンス

Amazon RDS DB インスタンス



Amazon
RDS



RDS DB
プライマリ
インスタンス

DB インスタンスのクラス

- CPU
- メモリ
- ネットワークパフォーマンス

DB インスタンス ストレージ

- マグネティック
- 汎用 (SSD)
- プロビジョンド IOPS



DB エンジン

■ AWSで、データベースを使用するには、どうすればいいんだろう？



Amazon Relational
Database Service
(Amazon RDS)

Relational Database Service(RDS)を使用すると、セットアップやバックアップなどの運用の負担を削減することができます。



EC2 や RDS は誰からでもアクセスできてしまうのだろうか？

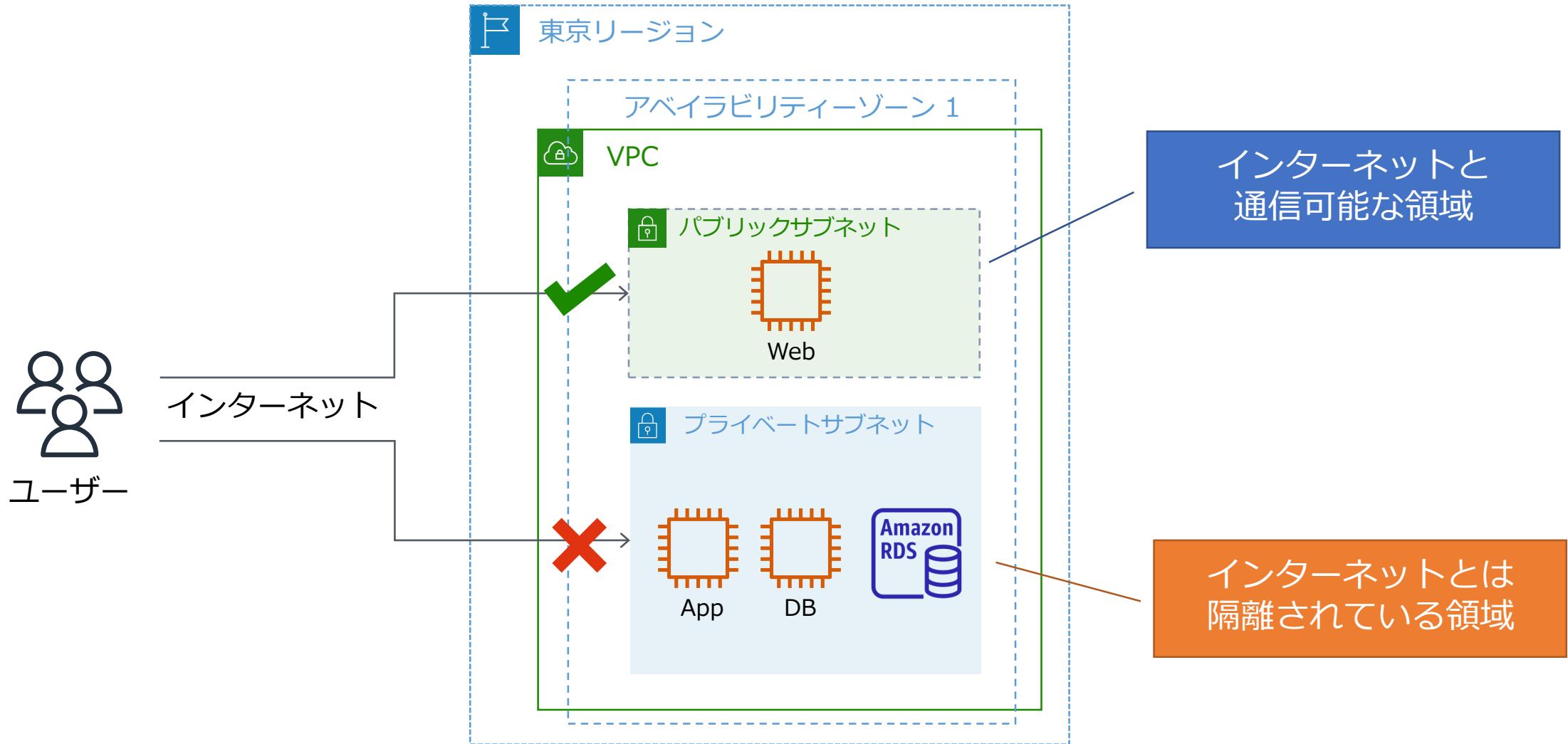
Amazon Virtual Private Cloud (VPC)

はじめに

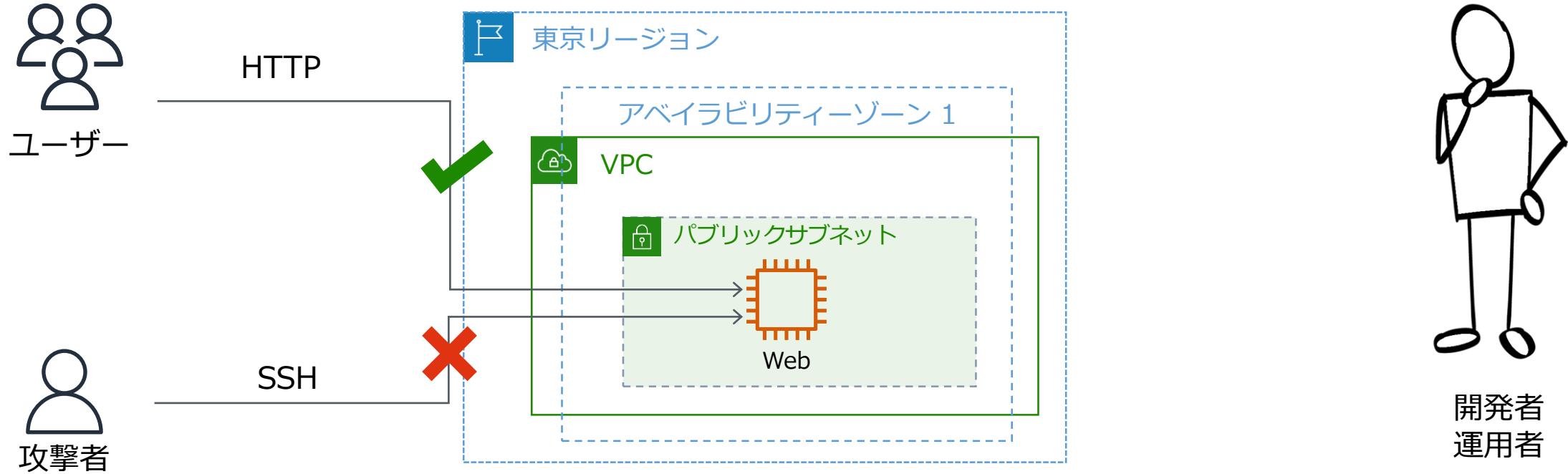


- AWS クラウド内の仮想プライベートネットワーク
- オンプレミスネットワークと同様の構成
- ネットワーク構成の完全なコントロール

例



特定の通信だけに制限できないだろうか？

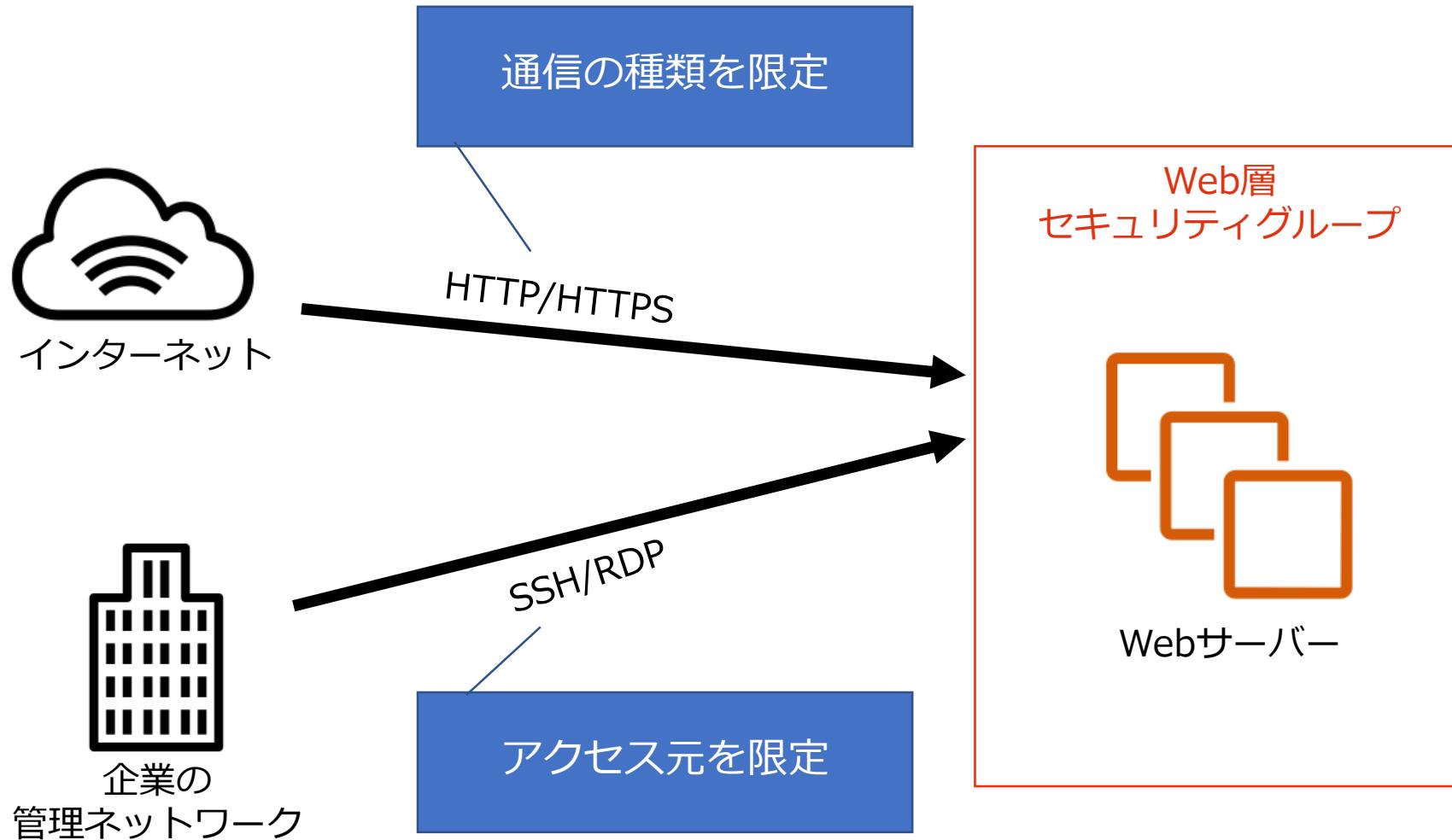


AWS セキュリティグループ

セキュリティグループ



- 仮想ファイアウォールを提供
- ルールを通してインスタンスへのアクセスを制御
- AWS マネジメントコンソールを使用して管理



まとめ

- Amazon Elastic Compute Cloud (EC2)
- Elastic Load Balancing(ELB)
- Auto Scaling
- Amazon Elastic Block Store (EBS)
- Amazon Simple Storage Service (S3)
- Amazon Relational Database Service (RDS)
- Virtual Private Cloud (VPC)
- セキュリティグループ



お疲れ様でした



セッション3:セキュリティ、 よいアーキテクチャの理解

トピック



- AWS のセキュリティの紹介
- AWS の責任共有モデル
- AWS のアイデンティティとアクセス管理
- Well-Architected Framework の紹介



AWSのセキュリティは
どうなっているんだろう？

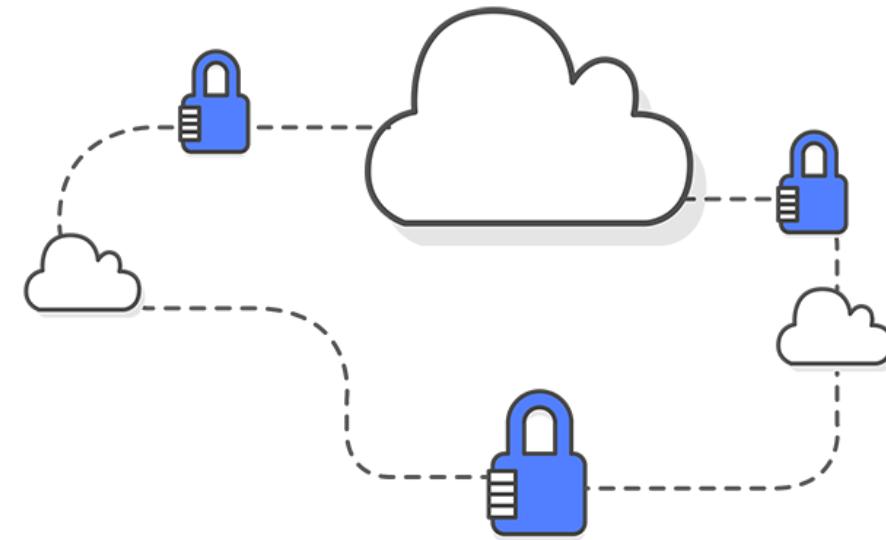
AWS のセキュリティの紹介

AWS のセキュリティの紹介



セキュリティは AWS の最重要事項です

- セキュリティに対するアプローチ
- AWS 環境の統制
- AWS が提供するサービスと機能



継続的な改善



- 急速なイノベーション
- 絶えず進化するセキュリティサービス

コンプライアンス要件への準拠



■ガバナンスを可能にする機能

- ✓ 追加の監視
- ✓ セキュリティ統制
- ✓ セントラルオートメーション

ネットワークセキュリティ



- 組み込みのファイアウォール
- 転送時の暗号化
- プライベートまたは専用の接続
- DDoS 緩和



データの暗号化

■ 暗号化機能

■ キー管理オプション

- ✓ AWS Key Management Service

■ ハードウェアベースの暗号化キー ストレージオプション

- ✓ AWS CloudHSM



- Identity and Access Management (IAM)
- Multi-Factor Authentication (MFA: 多要素認証)
- 社内ディレクトリとの統合とフェデレーション
- Amazon Cognito
- AWS IAM アイデンティティセンター (AWS SSO)



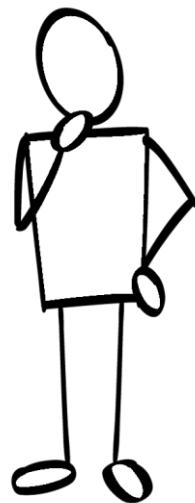
モニタリングとロギング



お客様のリスクプロファイルを軽減するツールと機能:

- ✓ API コールの詳細を可視化
- ✓ ログの集計とオプション
- ✓ アラート通知

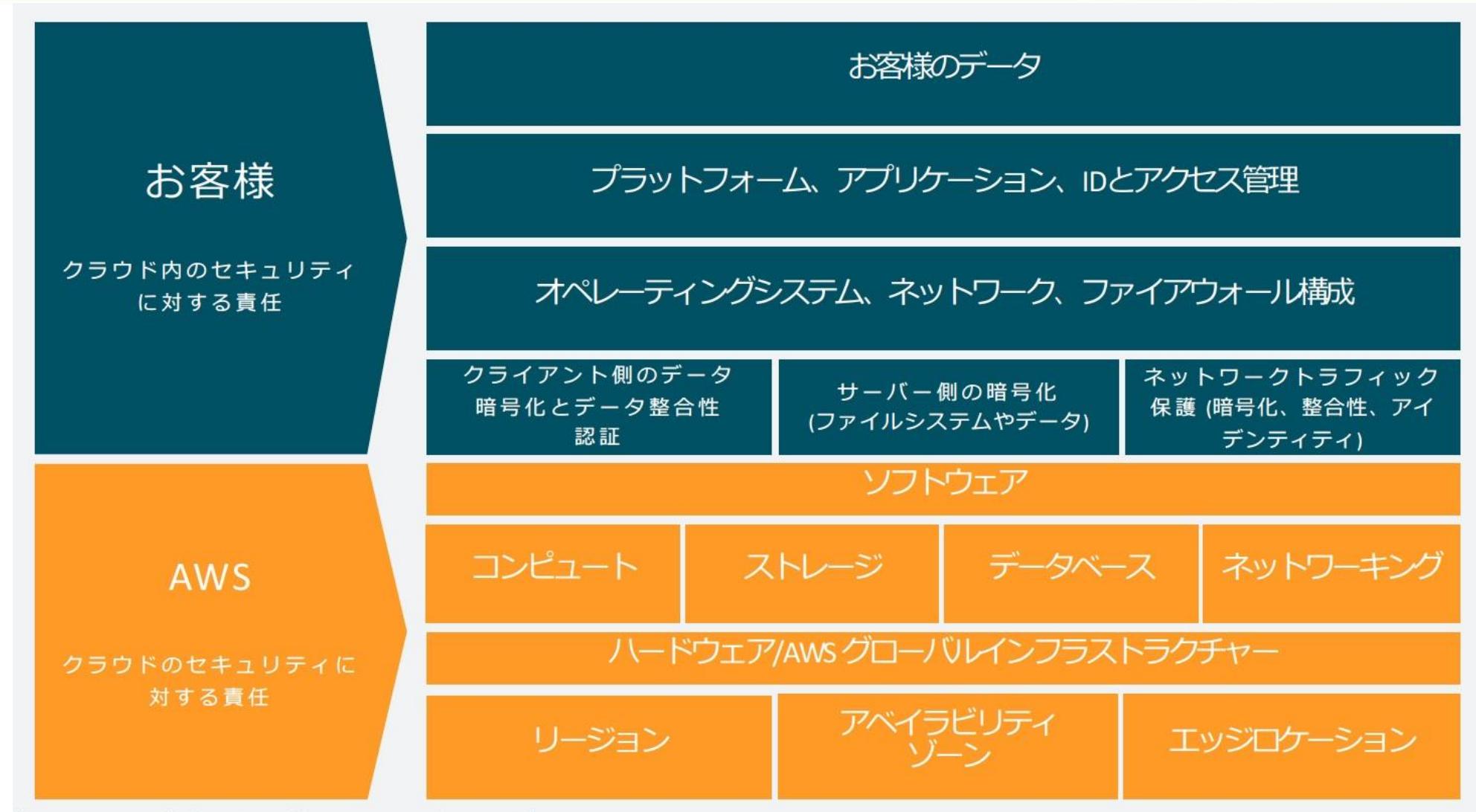




AWSに構築したシステムのセキュリティは
全部自分で考えるのだろうか？

AWS の責任共有モデル

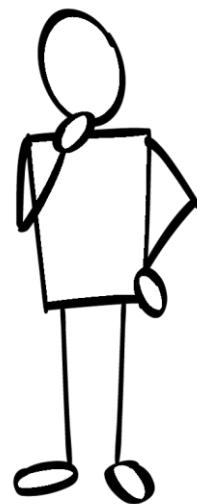
責任共有モデル



責任共有モデルの考え方



	責任範囲	具体例	ポイント
お客様 サービス を 利用	クラウドにおける セキュリティ security IN the cloud (クラウド内 ^の セキュリティとも)	データ アプリ OS	<ul style="list-style-type: none">柔軟性：サービスはお客様が選択し、コントロール（統制）することができる適切なサービスを利用して、必要なセキュリティ要件を満たすことができる
AWS サービス を 提供	クラウドの セキュリティ security OF the cloud	インフ ラ	<ul style="list-style-type: none">お客様の負担が軽減される：(1) お客様に代わってAWSがインフラ（データセンター）の運用管理を行う、(2) 業界標準のセキュリティ認証を取得ホワイトペーパー等による情報提供



どうやつたらAWSを利用できるのだろう？

AWS のアイデンティティとア クセス管理

ユーザとグループの作成

権限とロールの付与



AWS Identity and
Access Management
(IAM)



ユーザー



グループ



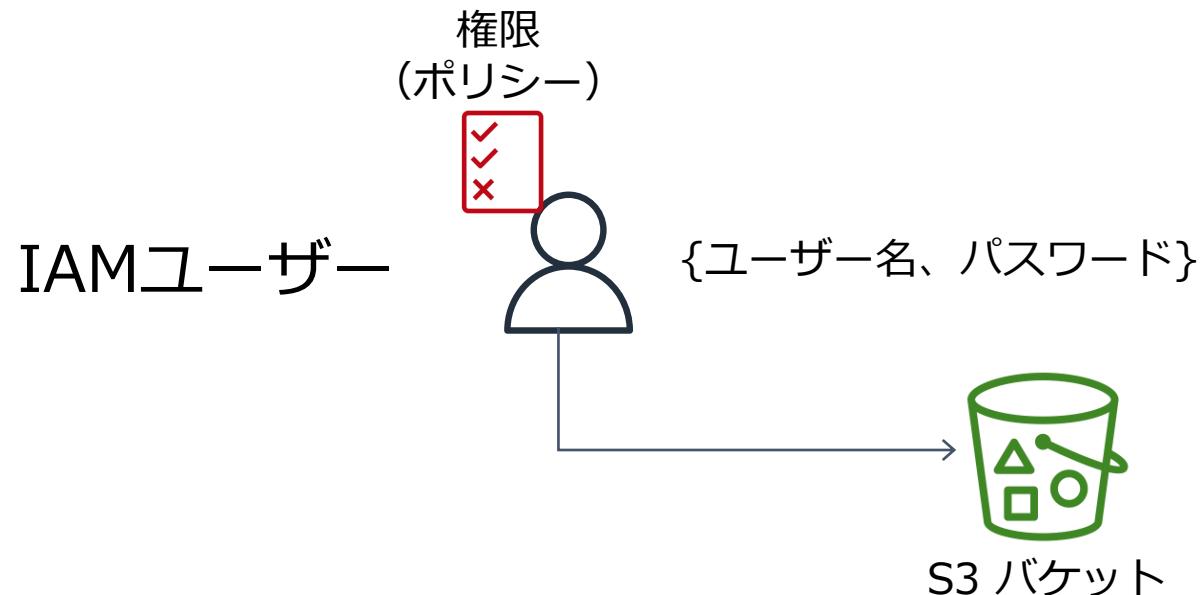
権限



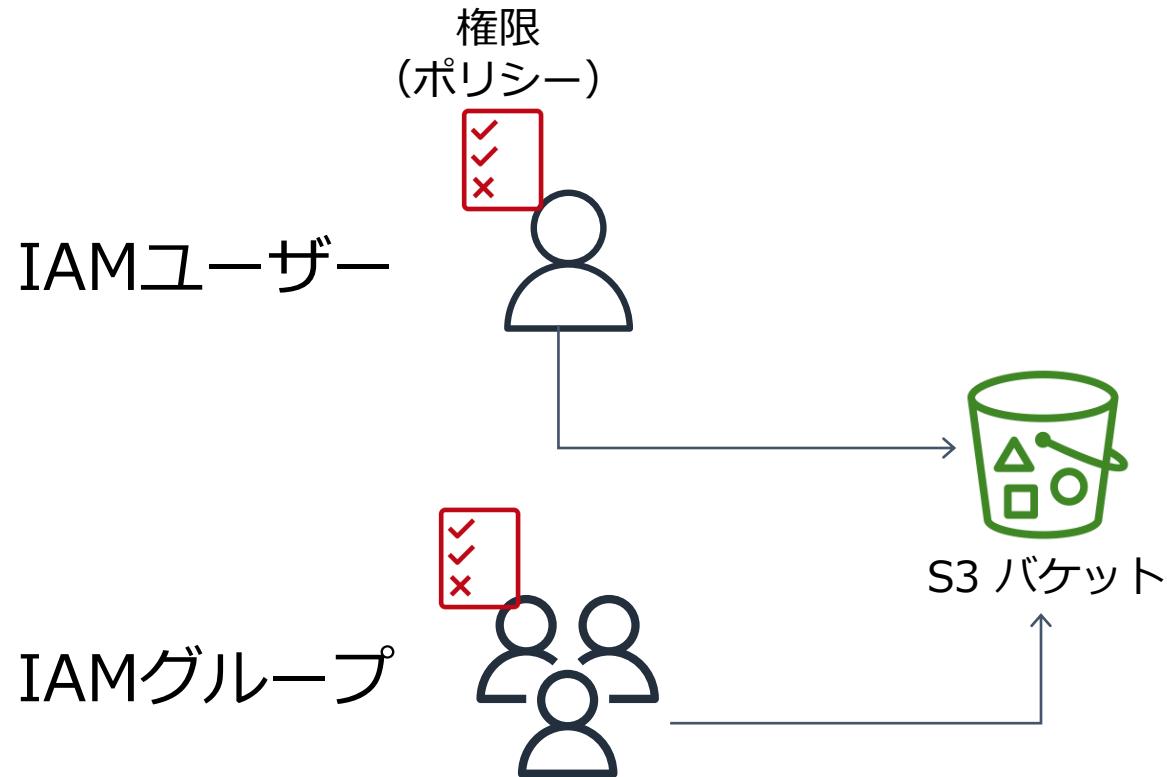
ロール

ルートユーザー  {メールアドレス、パスワード}

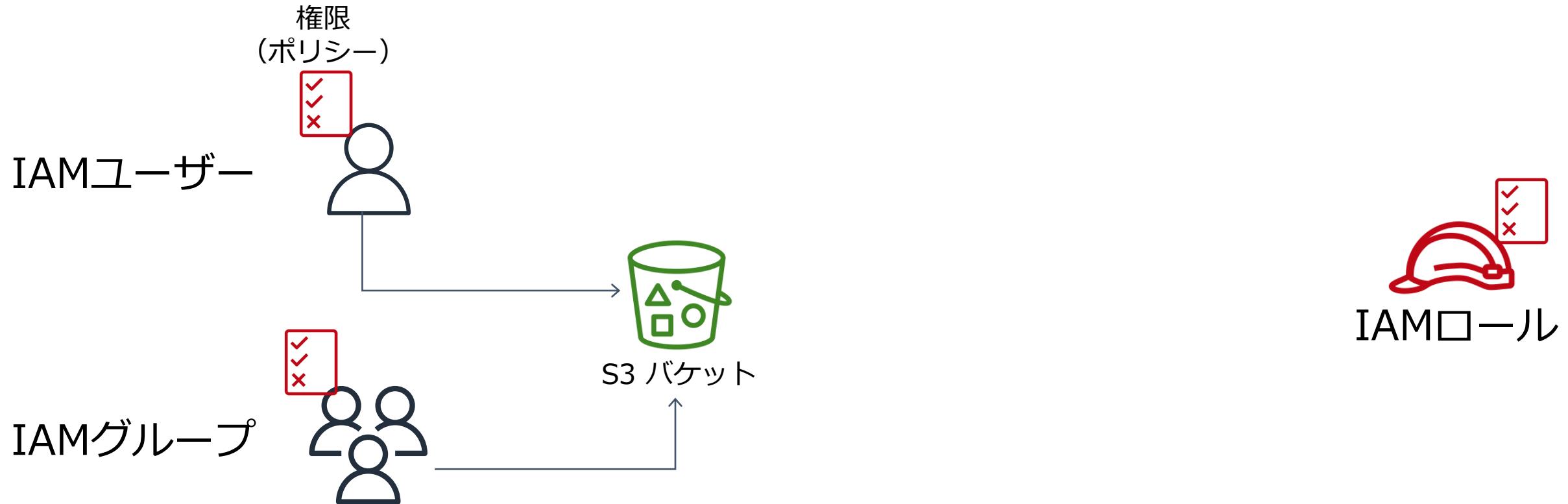
ルートユーザー  {メールアドレス、パスワード}



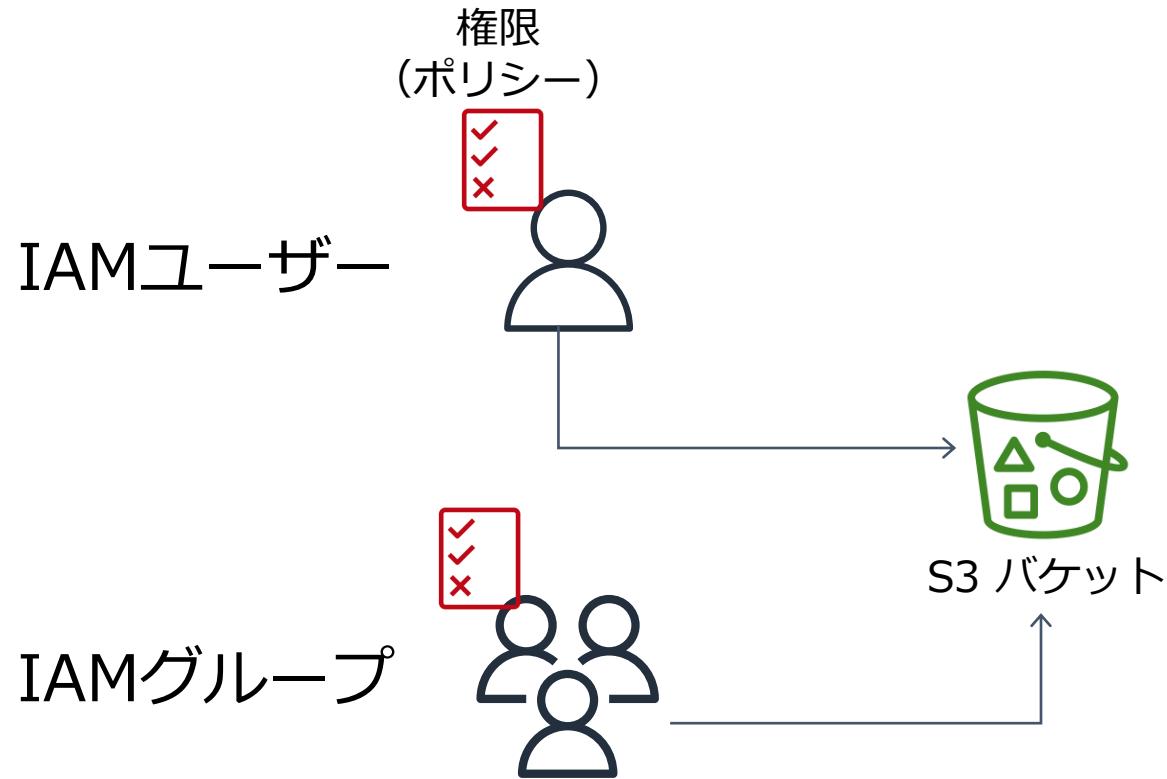
ルートユーザー 



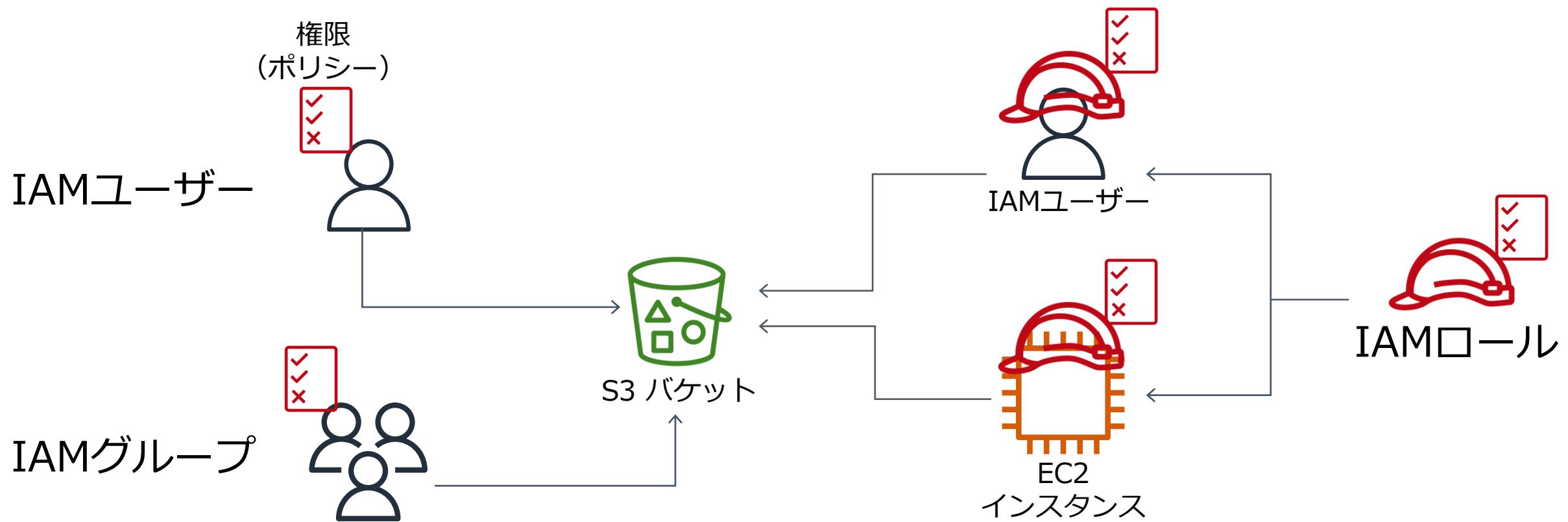
ルートユーザー 

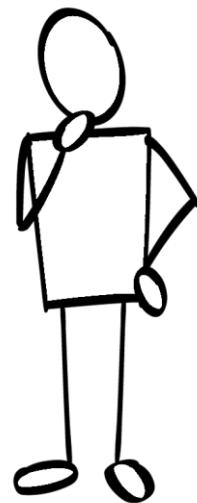


ルートユーザー 



ルートユーザー 





AWSにシステムを構築するにあたって、
どんなアーキテクチャがいいのだろう？

Well-Architected Framework の紹介

- アーキテクチャを評価し改善する
- 設計意思決定がどのようにビジネスに影響するかを理解する
- 6つの柱と設計原則

6つの柱



- セキュリティ
- 信頼性
- パフォーマンス効率
- コストの最適化
- 運用上の優秀性
- 持続可能性

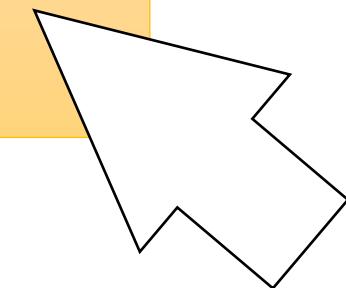
Well-Architected Framework



公式サイトを検索

AWS Well-Architected

検索



→ [「AWS Well-Architected –
安全で効率的なクラウドアプリケーション」](#)

- AWS のセキュリティの紹介
- AWS の責任共有モデル
- AWS のアイデンティティとアクセス管理
- Well-Architected Framework の紹介



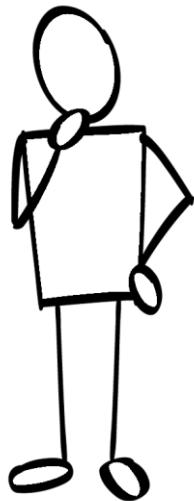
お疲れ様でした



セッション4: AWS利用 時の料金と注意点

料金の基礎

料金の例



AWSは従量課金制だけど、どこにどれだけコストがかかるのだろうか？

料金の基礎

AWS の料金モデル

- 従量課金制
- 予約による値引き



高額な前払い費用なしに、サービスに対して使った分のみの支払い

- 低額の変動コスト
- サービスが必要な期間のみの支払い
- 変化するビジネスニーズに適応
- イノベーションと発明への焦点の向け直し

リザーブドインスタンスの購入

■ 最大 72% 節約

■ オプション

- ✓ 全額前払い (AURI)
- ✓ 一部前払い (PURI)
- ✓ 前払いなし (NURI)

料金の例

Amazon EC2: 請求とインスタンスの設定



秒/時間単位による請求

- 立方体: リソースの料金は実行中にのみ発生

インスタンスの設定

- 立方体: インスタンスの物理的キャパシティー
- 立方体: 料金は以下によって異なります
 - ✓ AWS リージョン
 - ✓ OS
 - ✓ コア数
 - ✓ メモリ

Amazon EC2 インスタンスの購入オプション

■ オンデマンドインスタンス

- ✓ 時間および秒単位のコンピューティング性能
- ✓ 最低 60 秒

■ リザーブドインスタンス

- ✓ 予約するインスタンスに対して低額の前払い、または前払いなし
- ✓ そのインスタンスの時間あたりの料金で割引

■ スポットインスタンス

- ✓ 使用されていない Amazon EC2 キャパシティーに入れ

Auto Scaling

- インスタンスの数を自動的に調節
- EC2 Auto Scaling自体に追加料金の発生なし

Amazon EC2: OS とソフトウェア



- OS の料金が込みになったインスタンス料金
- 追加のソフトウェアについてはベンダーのライセンスが必要
- 特定のベンダープログラムを通じて既存のライセンスを移動

ストレージ利用容量

リクエスト:

以下に基づく料金設定

- リクエストの数
- リクエストのタイプ
 - ✓ GET リクエストは料金が異なる

データ転送

- Amazon S3 リージョンから送信されるデータの量に基づく
料金設定

追加料金なし

追加料金なしの AWS サービス

- Amazon VPC
- AWS Elastic Beanstalk
- AWS CloudFormation
- AWS IAM
- Auto Scaling
- AWS OpsWorks

コスト見積もりツール



AWS Pricing Calculator



The screenshot shows the AWS Pricing Calculator homepage. At the top, there are navigation icons (back, forward, search) and a URL bar showing "calculator.aws/#/". The main header features the AWS logo and the text "pricing calculator". On the right side, there are buttons for "フィードバック" (Feedback) and "日本語" (Japanese). The central content area has a dark background with white text. It features the title "AWS Pricing Calculator" and a subtitle "アーキテクチャのコストの見積もり". Below this, a sub-subtitle reads "AWS の製品およびサービスで独自のビジネスまたは個人のニーズに合うコスト見積もりを設定する。". To the right, a white box contains the text "見積もりを作成する" and "コミットメントなしで見積りを開始し、アーキテクチャのニーズに合う AWS のサービスや料金を探ります。", with a prominent orange "見積もりの作成" button at the bottom.

<https://calculator.aws/>

AWS 無料利用枠



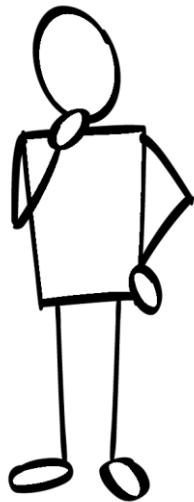
■ AWS 無料利用枠がお客様のクラウド開始をサポート

■ 制約事項

- ✓ 新規のお客様限定
- ✓ 最大 1 年間
- ✓ 特定のサービスとオプション



詳細については www.aws.amazon.com/free をご覧ください



お試しで構築したEC2インスタンス、
忘れた頃に請求が発生しないだろうか？

AWS Budgets



AWS Budgets は、AWS のサービスの使用量とコストについて、しきい値を設定するために使用できるツール

AWS Budgets							
All budgets (7)				Cost budgets (5)			
Budget name	Budget type	Current	Budgeted	Forecasted	Current vs. budgeted	Forecasted vs. budgeted	
Project Nemo Cost Budget	Cost	\$43.90	\$45.00	\$56.33	<div style="width: 97.55%; background-color: #0072bc;"></div> 97.55%	<div style="width: 125.17%; background-color: #e74c3c;"></div> 125.17%	...
Eastern US Regional Budget	Cost	\$85.21	\$100.00	\$125.28	<div style="width: 85.21%; background-color: #0072bc;"></div> 85.21%	<div style="width: 125.28%; background-color: #e74c3c;"></div> 125.28%	...
Total Monthly Cost Budget	Cost	\$141.50	\$175.00	\$187.00	<div style="width: 80.86%; background-color: #0072bc;"></div> 80.86%	<div style="width: 106.86%; background-color: #e74c3c;"></div> 106.86%	...
Total EC2 Cost Budget	Cost	\$136.90	\$200.00	\$195.21	<div style="width: 68.45%; background-color: #0072bc;"></div> 68.45%	<div style="width: 97.61%; background-color: #0072bc;"></div> 97.61%	...
S3 Usage Budget	Usage	3,601 Requests	5,500 Requests	4,675.75 Requests	<div style="width: 65.47%; background-color: #0072bc;"></div> 65.47%	<div style="width: 85.01%; background-color: #0072bc;"></div> 85.01%	...

■ 料金の基礎

■ 料金の例



お疲れ様でした



セッション5:各種デモと 入門のCloud Practitioner 資格のご案内

デモ

Cloud Practitioner資格のご案内

AWS認定

クラウドを主導していくスキルのある技術者を識別

効果的: AWS認定技術者はより生産性が高く、問題解決が早い*
AWSトレーニング受講および学習の効果測定
受講者の学習モチベーションの向上

安心: AWSの知識とスキルを証明し、クラウド推進に安心を提供

世界的: 業界をリードし、実績のあるクラウド認定資格

2021年 取得したい資格ランキング** **1位**

「日経クロステック」2021年10月12日掲載

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/01810/100800002/>



AWS 認定の種類

FOUNDATIONAL

6か月間 の基礎的な AWS クラウドと業界知識



ASSOCIATE

1年間 の AWS クラウドを使用した問題解決と解決策の実施における経験



PROFESSIONAL

2年間 の AWS クラウドを使用したソリューションの設計、運用、およびトラブルシューティングに関する包括的な経験



SPECIALTY

試験ガイドで指定された専門知識分野に関する技術的な AWS クラウドでの経験

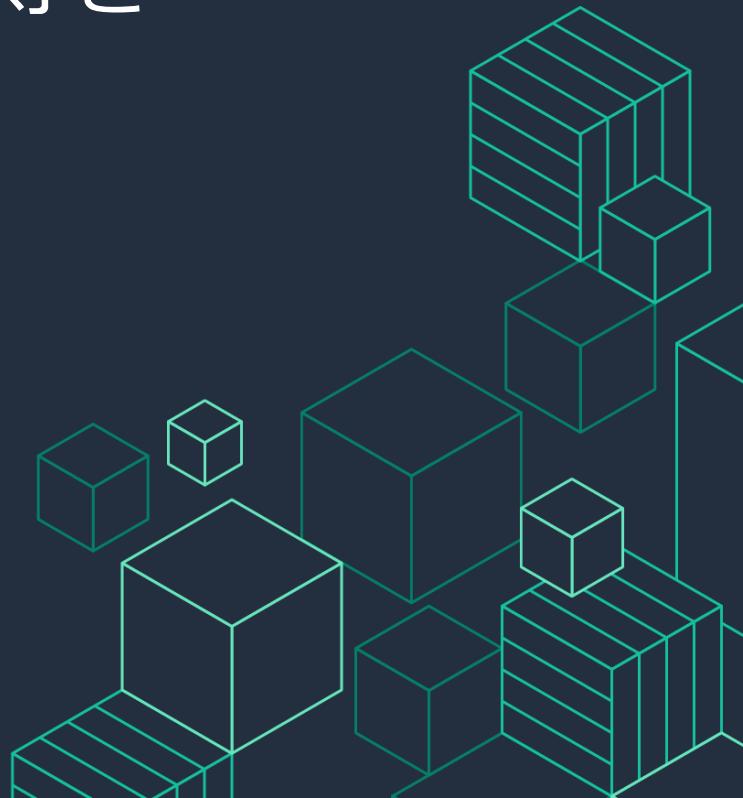


AWS 認定とクラウド人材

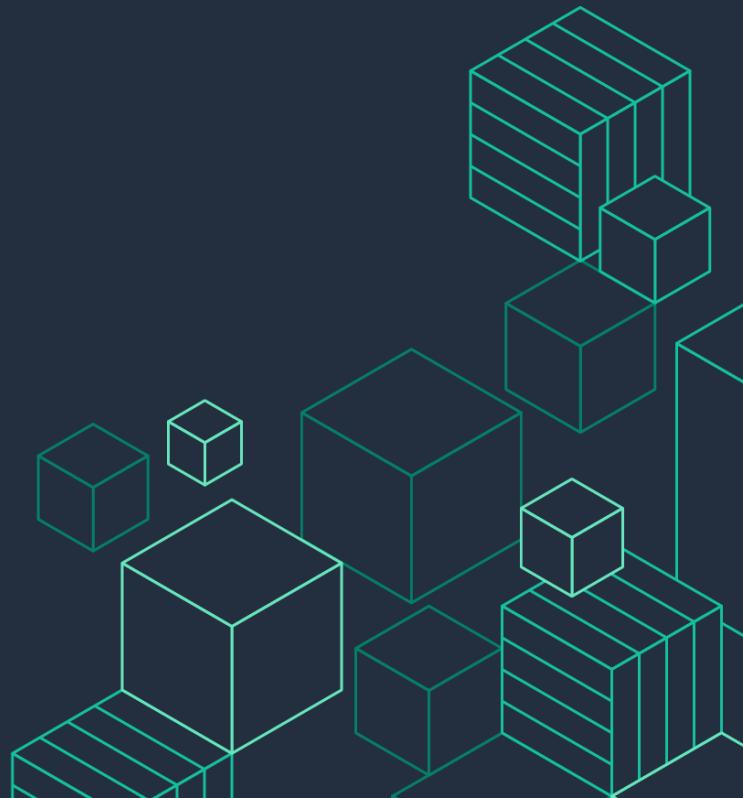


AWSトレーニングのご受講とAWS認定の取得を
是非、ご検討ください

お問い合わせはこちらから
<https://aws.amazon.com/jp/contact-us/>



修了メールにあるAWSアンケートにも
ご回答お願いいいたします





お疲れ様でした